

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」は、  
下記企業からのご賛同・ご支援をいただき活動しております。

東海旅客鉄道株式会社  
トヨタ自動車株式会社  
パナソニック株式会社  
株式会社読売新聞東京本社



こころを育む総合フォーラム 全国運動

2010年度  
**活動のご案内**  
&

子どもたちの“こころを育む活動”  
**受賞事例集**



こころを育む総合フォーラム 全国運動に関するお問い合わせ

公益財団法人 パナソニック教育財団内  
こころを育む総合フォーラム 全国運動事務局

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-10 第2ローレルビル 6階  
TEL 03-5521-6100 FAX 03-5521-6200 URL <http://www.kokoro-forum.jp/>

「こころを育む総合フォーラム 全国運動」は文部科学省の後援を受けています。

# 「こころを育む総合フォーラム」より

「こころを育む総合フォーラム」は、昨今のさまざまな社会事象から浮かび上がる日本人の心の荒廃に危機感を抱き、はじめてかけたいとの思いを共有する有識者16名が集い、2005年4月に設立されました。設立以来、家庭・学校・地域・企業などの視点から討議を重ね、07年に提言書をまとめ、発表しました。また、シンポジウムおよび全国キャラバンの講演をまとめた『いま、こころを育むとは』(小学館新書)を09年に発刊いたしました。

この提言を具体化するきっかけづくりとして、全国各地で実践されている、こどもたちの「こころを育む」活動を募集し、優れた事例を支援し紹介する全国運動を08年度より展開しています。第三回となる10年度は、個人の部から2名、団体の部から12団体が選出され、もっとも優れた活動として特定非営利活動法人 オバパト隊が全国大賞に選ばれました。

本書では、第三回受賞の全14事例をご紹介しますと共に、第一回、第二回に受賞された方々の事例について、あらためてご紹介いたします。そのすべてが、こどもたちのこころを育むすばらしい取り組みです。本書が、受賞団体・個人をはじめ活動を続けている方々へのエールとなり、また優れた活動が全国に広がるきっかけとなることを、心より願っています。

## ■こころを育む総合フォーラム 有識者メンバー (2011年3月31日現在) (敬称略・50音順)

安西祐一郎(慶應義塾大学 教授)	永井多恵子(前 日本放送協会 副会長)
石井 幹子(石井幹子デザイン事務所 主宰)	中村 邦夫(パナソニック 会長)
葛西 敬之(東海旅客鉄道 会長)	中村 桂子(JT生命誌研究館 館長)
金澤 一郎(日本学術会議 会長)	野依 良治(理化学研究所 理事長)
佐々木 毅(学習院大学 教授)	本田 和子(お茶の水女子大学 名誉教授)
滝鼻 卓雄(前 読売新聞東京本社 会長)	三村 明夫(新日本製鐵 会長)
張 富士夫(トヨタ自動車 会長)	山折 哲雄(国際日本文化研究センター 名誉教授)
遠山 敦子(パナソニック教育財団 理事長)	鷲田 清一(大阪大学 総長)

## CONTENTS 目次

### 活動のご案内

「こころを育む総合フォーラム」からの “七つの問い”	4
「こころを育む総合フォーラム 全国運動」とは?	6
■「こころを育む総合フォーラム」2010年度の活動	
・有識者会議	8
・全国キャラバン	9
・シンポジウム	10

### 受賞事例紹介

#### 2010年度受賞事例 [団体の部]

●全国大賞	
高齢女性パトロール隊による、安心安全な子育て環境づくり 特定非営利活動法人オバパト隊(熊本県)	12
[活動領域:学校・地域]	
●ブロック大賞(北海道・東北ブロック)	
郷土愛を育む、地域ブランド商品づくり 酒田市立飛鳥中学校(山形県)	16
[活動領域:学校・地域・企業]	
●ブロック大賞(関東ブロック)	
学校の教育活動全体を通じた道徳教育 鴻巣市立鴻巣南小学校(埼玉県)	18
[活動領域:家庭・学校・地域]	
●ブロック大賞(中部ブロック)	
親子体験事業で、子育て環境の充実を 特定非営利活動法人 ポレポレ(静岡県)	20
[活動領域:家庭・地域]	
●ブロック大賞(近畿ブロック)	
地域の自然と生き物に触れる体験学習 播磨マリンクルー(兵庫県)	22
[活動領域:学校・地域]	
●ブロック大賞(中国・四国ブロック)	
犯罪被害者遺族が語る、命の授業 特定非営利活動法人おかもやま犯罪被害者 サポート・ファミリーズ(岡山県)	24
[活動領域:学校・地域]	

#### ●奨励賞(北海道・東北ブロック)

地域でできる、こころを育む社会体験の場づくり 社団法人 札幌青年会議所(北海道)	26
[活動領域:地域]	

#### ●奨励賞(関東ブロック)

絵本を架け橋に、子どもも高齢者も元気に りぷりんとネットワーク(東京都)	27
[活動領域:学校・地域]	

#### ●奨励賞(関東ブロック)

子どもと大人、地域をつなぐ「さんさ」 台東区立黒門小学校 育ての会(東京都)	28
[活動領域:学校・地域]	

#### ●奨励賞(関東ブロック)

病気のある子どもへ笑顔を届ける院内プログラム 任意団体病院プロジェクトALIVE(神奈川県)	29
[活動領域:家庭・学校]	

#### ●奨励賞(近畿ブロック)

子どもを主人公にする、参加型人形劇 特定非営利活動法人 おはなしキャラバンつばさ(大阪府)	30
[活動領域:学校・地域]	

#### ●奨励賞(九州・沖縄ブロック)

地域行事を、世代間交流と学びの場に 佐賀市立北川副公民館運営協議会(佐賀県)	31
[活動領域:家庭・地域]	

#### 2010年度受賞事例 [個人の部]

●個人賞	
編みぐるみを活かした読み聞かせ 小林 秀子(埼玉県)	32
[活動領域:家庭・地域]	
●奨励賞	
子どもの心と体を育む、運動遊び 村田 トオル(兵庫県)	33
[活動領域:地域]	
●2009年度受賞者活動報告	34
●2008年度受賞者一覧	39

## ■こころを育む総合フォーラム 活動の経緯

### 2005年

#### 「こころを育む総合フォーラム」発足

- 4月 学界、経済界をはじめ各界を代表する16名のメンバーで発足
- 10月 京都にてシンポジウムを開催

### 2006年

- 10月 東京にてシンポジウムを開催

### 2007年

#### 議論をまとめた提言書を公表

- 1月 発足から計18回の討議を経て、提言書を公表
- 11月 東京にてシンポジウム開催

### 2008年

#### 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」スタート

- 子どもたちの「こころを育む」活動の募集、表彰を開始
- 8月 高松・北見にて全国キャラバン開催

### 2009年

- 3月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」表彰式・シンポジウム開催
- 8月 浦安にて全国キャラバン開催
- 12月 松江にて全国キャラバン開催
- 12月 『いま、こころを育むとは』(山折哲雄著・小学館新書)刊行

### 2010年

- 2月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」表彰式・シンポジウム開催
- 10月 山形にて全国キャラバン開催
- 12月 大阪にて全国キャラバン開催
- 2011年
- 2月 「こころを育む総合フォーラム 全国運動」表彰式・シンポジウム開催

# 子どもたちのためにできること

## 「こころを育む総合フォーラム」からの “七つの問い”

「こころを育む総合フォーラム」では、子どもたちのこころを育む活動のヒントとなる“七つの問い”を呼び掛けています。

家庭・学校・地域・企業など、子どもたちを取り巻くすべての場所で、きっとできることがあるのではないのでしょうか。

### 家庭



- 子育てはみんなの手で
- 大事にされているという体験、それが信頼の基礎
- 子育てにもっと高い社会的評価を
- 母親を孤立させないための仕組みを
- 子育てを楽しいと感じられる環境を

#### ● 家庭での育みを見なおすための七つの問い

- 1 幼い子どもに、親(保護者)は、たっぷり愛情をそそいでいるだろうか?
- 2 子どものよい点をしっかり誉めて、自信をもたせているだろうか?
- 3 子育ての不安、ストレスへの対応は、家族、親戚、近隣、保育所などでともに担われているだろうか?
- 4 子育ては苦労もあるが、幼いのちを育む喜びと楽しみがあるということが、きちんと認識されているだろうか?
- 5 親(保護者)の姿勢が、子どものこころを創っているという自覚があるだろうか?
- 6 家庭で、子どものこころからよい生活習慣を身につけさせているだろうか?
- 7 子どもは社会のみんなが育てるもの、家庭はそのなかでもっとも重要なものだとして認識しているだろうか?

### 学校



- 学校は社会性を身につける場所
- ともに力を合わせて学校をつくるという態度を
- 「いじめ」をめぐって
- 学校をもっと開いていこう
- 社会の一人ひとりが人を育む気概を

#### ● 学校での育みを見なおすための七つの問い

- 1 学校は、子どもたちにしっかりと学力を身につけさせ、先生や友人との関係をつうじて対人関係の基本を育てているだろうか?
- 2 教師は、一人ひとりの子どもに自信をもたせる努力をしているだろうか?
- 3 学校では、道徳教育を魅力的で説得的なものにするよう、工夫をしているだろうか?
- 4 道徳教育の時間だけでなく、学校全体で「こころを育む」という姿勢をとっているだろうか?
- 5 学校では、「こころを育む」ための具体的なアクションをとっているだろうか?
- 6 学校と親(保護者)とは、たがいの立場を尊重・理解し、協力しあう関係にあるだろうか?
- 7 学校と地域の大人たちは、一致協力して、子どもたちの居場所、子どものための相談場所を設けているだろうか?

### 地域



- 子どもが自然に育つ場
- みんなで協同して事にあたる力を
- 地域社会の新たな役割
- 子どもの視点に立ったまちづくりを

#### ● 地域社会における育みを考えるための七つの問い

- 1 地域のだれもが、子どものこころを育むという姿勢で、子どもに接しているだろうか?
- 2 地域として独自の役割を考え、学校とセットで、子どもたちの学習環境をつくっているだろうか?
- 3 地域社会は、子どもたちが自立して力強く生きていく力を育てているだろうか?
- 4 地域のなかに子どもたちの居場所をきちんと設けているだろうか?
- 5 地域教育プログラムの充実と活性化を図っているだろうか?
- 6 地域活動への参加を子どもたちに促すための施策を実施しているだろうか?
- 7 子どもたちの視点に立ったまちづくりをしているだろうか?

### 企業



- 文化としての「育み」
- 思いどおりにならないこと
- 子どもたちを苛む(わたし)への問い
- 企業も地域における子どもたちの「育み」をともに担おう
- 情報社会という環境

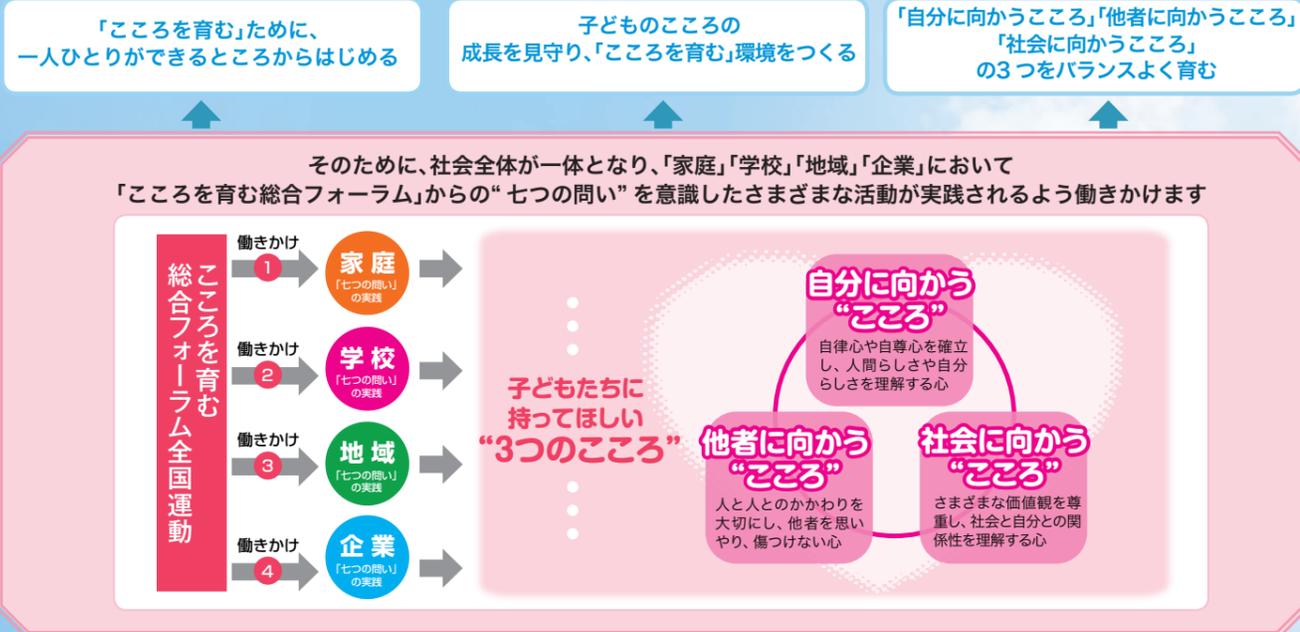
#### ● 企業・メディアによる育み支援を考えるための七つの問い

- 1 企業は、その使命と役割を自覚した行動ができているだろうか?
- 2 企業人は、みずからが同時に市民・生活者であることの自覚を十分にもっているだろうか?
- 3 企業人一人ひとりが、同時に市民・生活者として、よりよい社会づくりに積極的に関与しているだろうか?
- 4 企業みずからが、市民としての社員教育に積極的に取り組んでいるだろうか?
- 5 メディアは、子どもたちに学びや仕事の意義や楽しさを、きちんと伝えているだろうか?
- 6 メディアは、地域のすぐれた教育活動の事例を、進んで報道しているだろうか?
- 7 わたしたちの社会は、高度情報化社会が子どもたちの対人関係に与える影響を考えた対応をしているだろうか?

# なぜ、今、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を呼びかけるのか

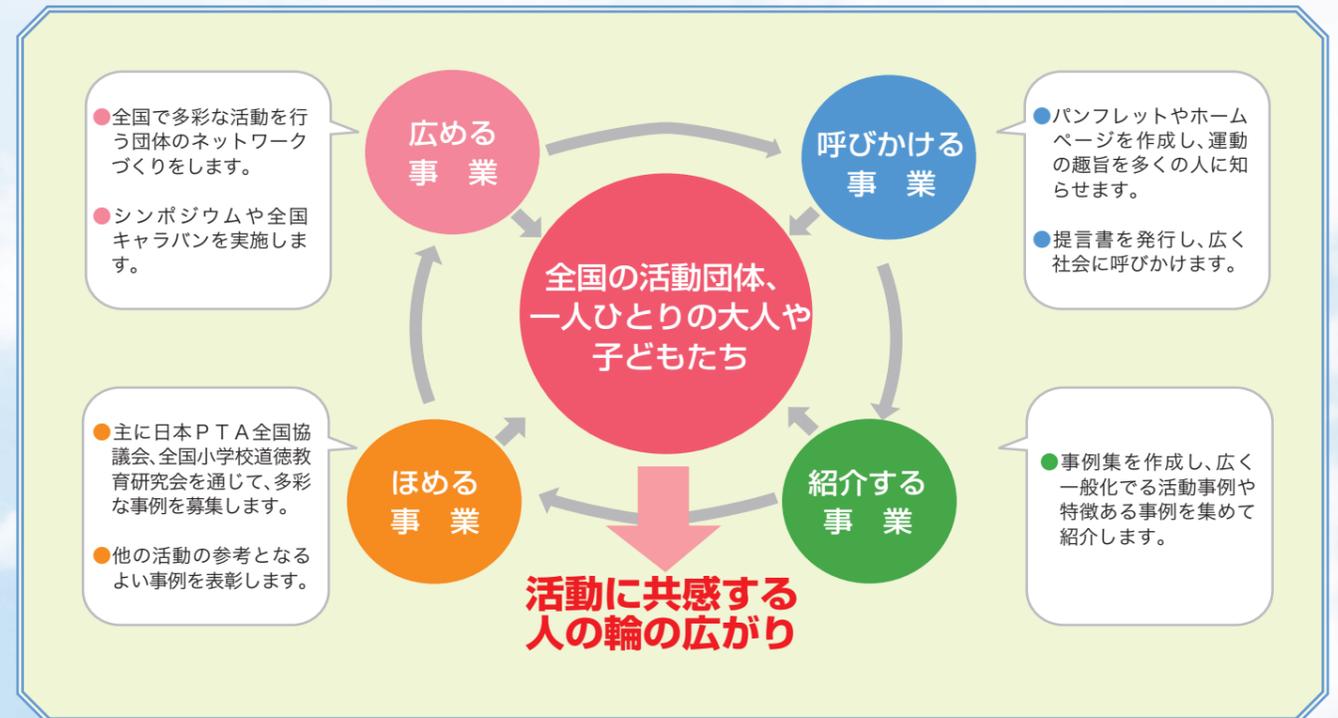
想像を絶する残虐な事件、組織の不祥事、人として守るべきマナーの欠落。私たち日本人が本来持っていたはずの素晴らしい倫理感はどこへ行ってしまったのでしょうか。このような状況に危惧を持ち、未来を担う子どもたちのために、個人や団体がさまざまな活動をされている方がいます。「こころを育む総合フォーラム」では、そのような活動を応援し、全国に広げるために、そして子どもたちの健やかな未来をみんなで考えるために、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を呼びかけています。

## 全国運動のねらい



# 全国運動を実施する主な事業とは

全国各地で実践されている、子どもたちの「こころを育む活動」を支援するために「呼びかける事業」「紹介する事業」「ほめる事業」「広める事業」の4つの事業を展開いたします。



## 呼びかける事業

**■事業のねらい**  
「こころを育む総合フォーラム 全国運動」の趣旨をより多くの人に知らせ、共感する個人・団体を増やすことと同時に、広く社会一般に問題提起をします。

**■事業内容**  
パンフレット、ホームページ、新聞等のさまざまなメディアを活用しての広報を実施します。

- 社会全般への呼びかけ**  
有識者会議\*での検討内容を提言書として発信し、社会への呼びかけや問題提起をします。  
※P2にメンバーを掲載しています。
- 大人への呼びかけ**  
子どもたちのこころを育む活動を広く募集し、大人全般に呼びかけをします。
- 子どもへの呼びかけ**  
子どもたちのこころを育む活動について、各メディア等を通して子どもたちに呼びかけをします。

## 紹介する事業

**■事業のねらい**  
全国で実践されているさまざまな子どもたちのこころを育む活動について、より多くの方々に知らせ、新たにそれらの活動へ参加したり支援をするきっかけを作ったり、活動の改善や新しい領域へ活動の輪を広げる機会を提供します。

**■事業内容**  
“ほめる事業”に応募いただいた、全国の多彩な実践活動例の中から特に、子どもたちのこころを育む活動であり、進める・広げる・続ける「3つの工夫」が認められるなど、他の活動の参考となる事例を紹介するため、事例集を作成します。

- 事例集**  
優秀事例に選出された活動について、目的や内容、主な実践プログラムをはじめ、参加した子どもたちの声、進める・広げる・続ける「3つの工夫」など、実践者の方々への取材を元に、具体的にわかりやすく紹介します。

## ほめる事業

**■事業のねらい**  
全国各地で実施されている活動の中から、他の活動の参考となるよい活動を表彰し、運動の元気づけをします。

**■事業内容**  
全国各地で実践されている、子どもたちの「こころを育む活動」を自薦・他薦を問わず、活動の大・小や個人・団体も問わず募集し、審査の上、表彰します。

**1 応募できる活動**

下記の「3つの工夫」のいずれかが認められること

- 進める工夫** 活動の対象や目的が明確で、進め方における工夫・努力がある
- 広げる工夫** ネットワークを作り、活動を広げるための工夫・努力がある
- 続ける工夫** 活動を継続するための仕組み・工夫がある

**2 表彰の内容**

団体の部	全国大賞	1件	表彰状・盾・賞金 100万円
	ブロック大賞	全国大賞が選出されたブロックを除き、各ブロックから1件	表彰状・盾・賞金 30万円
個人の部	奨励賞	若干数	表彰状・記念品
	個人賞	若干数	表彰状・記念品
個人の部	奨励賞	若干数	表彰状・記念品
	個人賞	若干数	表彰状・記念品

## 広める事業

**■事業のねらい**  
「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を広めるために、運動に関心のある個人、また団体同士の交流を図り、情報交換などを促すことにより、運動のネットワーク化を進めます。

**■事業内容**  
「こころを育む総合フォーラム 全国運動」を広めると同時に、表彰された活動を紹介し、また個人・団体同士の全国規模のネットワーク作り、情報交換の場として「シンポジウム」「全国キャラバン」を実施します。

- シンポジウム**  
(年1回 東京開催予定)  
全国から実践者を招き、優秀事例の表彰と紹介、有識者メンバーとのパネルディスカッションなどを通して、情報交換を行った交流を深めるために「シンポジウム」を開催します。
- 全国キャラバン**  
(年2~3ヶ所開催予定)  
「全国キャラバン」として、「こころを育む総合フォーラム」有識者メンバーが各地域を訪れ、地域で活動を実践している方々を招いてパネルディスカッションなどを行い、実践者と交流します。

## 有識者会議

「こころを育む総合フォーラム」は、「こころを育む」環境づくりのために、さまざまな活動を進めています。2005年のフォーラム設立以来、継続して行われているのが、各界を代表する有識者メンバーによるブレックファースト・ミーティング（有識者会議）です。ゲストスピーカーを招き、日本人の心のありようについて、家庭・学校・地域・企業などの視点から討議を重ねています。2010年度は3回実施し、ゲストスピーカーと出席メンバーとの間で活発な意見交換が行われました。



第26回ブレックファースト・ミーティング

### 2010年度 開催記録

#### 第25回

●開催日：2010年4月13日

●ゲストスピーカー  
関西大学人間健康学部長  
竹内洋氏

●テーマ  
教養としてのユーモア

こころを育むことを考える場合、「ユーモア」が大切ではないか。イギリス人は、ユーモアが、生活の中の「たしなみ」になっていると強く感じる。パブリック・スクールの教養は、スポーツと正しいマナーと、身体に刻み込まれるようなもの。身体知としての教養、いわば「感じる教養」ということが大切ではないか。学部長を引き受ける時、スポーツと社会福祉と、もう一つ「ユーモア」を入れて三本柱にしたいと思った。日本社会は「ユーモア」をもっと大切に考えるべきではないだろうか。



ゲストスピーカーの竹内洋氏



#### 第26回

●開催日：2010年7月23日

●作家  
重松清氏

●テーマ  
子どもたちをめぐる「友だち関係への憧れと同調圧力」「中景の喪失」について

今、子どもたちの間でリーダーの要因として、「おもしろいやつ」という新しい価値観が出てきた。言い換えれば、コミュニケーション・スキル。それが下手な子、スキルを持っていない子は、非常につらくなる。友達をつくる、みんなとうまくやる、それはすばらしいことだが、仲間がいることのすばらしさと、そこからこぼれ落ちてしまう「いけにえ」を置くことによって仲間が結束するという恐ろしさは、無関係ではないのでは。スキルを持っていない子どもたちの居場所を何とかつくらなければいけないのではないか。



ゲストスピーカーの重松清氏

#### 第27回

●開催日：2011年1月7日

●ゲストスピーカー  
作家  
青木新門氏

●テーマ  
いのちのバトンタッチ

納棺の仕事をし、死にゆく人や死者から「いのちのバトンタッチ」の大切さを学んだ。命の大切さを訴えても、大人社会が生にのみ価値を置いて、生を維持するための経済に手段を目的化してしまっているから、命に保険をかけて殺すような事件が起きる。それは死の実相を知らないからではないか。映画「おくりびと」の原作者として名を出すことを断ったのは、死の実相は、生と死の交差する瞬間、臨終の一瞬にあると思っているから。息たえだえでも、ほほえんで「ありがとう」と言って終る場面にしてほしかったのである。



作家青木新門氏

## 全国キャラバン

フォーラム有識者メンバーが各地域を訪れ、地域で「こころを育む」活動を実践している方々と交流する全国キャラバンを開催しています。子どもたちの健やかな未来を地域の皆さんと共に考え、「こころを育む」取り組みを広げていきたいと考えています。

### こころを育む総合フォーラム 2010 in 山形

#### 命を守り共に生きる社会を きずくために

日時：10月2日

会場：川西町フレンドリープラザ

内容：子どもたちの「こころを育む活動」2009年度全国大賞を受賞した、山形県立置賜農業高等学校演劇部による、食育ミュージカル『ベジタブル!! ワンダフル』公演が行われました。農業高校ならではの視点や言葉で、食や命の大切さについてわかりやすく、また楽しく伝えるミュージカルに、会場からは大きな拍手が贈られました。また、「こころを育む総合フォーラム」山折哲雄座長の「こころを育むとは～危機と不安のなかでいきる～」と題した講演が行われました。

#### 1. 食育ミュージカル

山形県立置賜農業高等学校演劇部  
『ベジタブル!! ワンダフル』

#### 2. 講演

山折哲雄（国際日本文化研究センター名誉教授）  
テーマ「こころを育むとは～危機と不安のなかでいきる～」



### 教育フォーラム2010

#### 好っきゃねん なにわの子 ～子どもの笑顔のために～

日時：12月4日

会場：クレオ大阪中央

内容：分科会が行われた後、大阪ジュニアバンドによるオープニングセレモニーから始まり、平松邦夫大阪市長による講演、山折哲雄座長による講演が行われました。パネルディスカッションでは、大阪市の学校・保護者の代表、パナソニック教育財団の遠山敦子理事長、コーディネーターに大阪教育大学の木原俊行教授を迎え、子どもたちの笑顔を増やすために学校・家庭・地域にできることは、またどのように連携すべきかについて、議論が交わされました。

#### 1. 分科会

「なにわの子をみんなで育てる」  
発表校：大桐中学校、花乃井中学校、放出小学校

「なにわの子を守りはぐくむ」  
発表：大阪市教育委員会

#### 2. オープニングセレモニー（大阪市ジュニアバンド）

#### 3. 講演

平松邦夫（大阪市長）  
テーマ「輝く子ども 輝く未来」

#### 4. 講演

山折哲雄（国際日本文化研究センター名誉教授）  
テーマ「子どもを育む」

#### 5. パネルディスカッション

テーマ「好っきゃねん なにわの子～子どもの笑顔のために～」

●コーディネーター  
山折 哲雄（国際日本文化研究センター 名誉教授）  
●シンポジスト  
遠山敦子（パナソニック教育財団理事長）  
木原俊行（大阪教育大学教授）  
小・中学校長会代表／地域代表／保護者代表





## シンポジウム

2011年2月5日、津田ホールにて、「こころを育む総合フォーラム シンポジウム」を開催いたしました。

3回目となる今回は、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」10年度優秀事例の表彰式および活動事例紹介、受賞者と有識者によるパネルディスカッションを実施。全国からお集まりいただいた多くの方に、優れた活動を紹介すると共に、全国運動の呼びかけを行いました。



3回目となるシンポジウムには、地域で「こころを育む活動」を実践されている方々など、全国からご参加いただきました。

### 子どもたちの「こころを育む活動」表彰式

10年度に募集した、子どもたちの「こころを育む活動」より選出された優秀事例の表彰を行いました。10年度は、個人の部から奨励賞1名・個人賞1名、団体の部からは奨励賞6団体・ブロック大賞5団体が選出され、第三回全国大賞には熊本県の特定非営利活動法人オバパト隊が選ばれました。



全国大賞を受賞したオバパト隊をはじめ、全国からお集まりいただいた受賞者の方々に、表彰状と記念品などが贈られました。

### パネルディスカッション 「進める、広げる、続ける」

「進める、広げる、続ける」をテーマに、受賞者と有識者によるパネルディスカッションを行いました。受賞団体からパネリストを迎え、活動事例を紹介していただくと共に、活動における工夫や課題について、議論が交わされました。



受賞団体からは、独自の取り組みやユニークな工夫が紹介され、熱い議論が交わされました

- ◎コーディネーター 市川伸一（東京大学大学院教授）
- ◎パネリスト 下川邦子（オバパト隊 隊長）  
小淵雄司（鴻巣市立鴻巣南小学校 校長）  
滝鼻卓雄（前 読売新聞東京本社 会長）  
遠山敦子（パナソニック教育財団 理事長）
- ◎コメンテーター 山折哲雄（国際日本文化研究センター 名誉教授）

### 受賞者交流会

シンポジウム終了後、受賞団体・個人の方々に招いて交流会を行いました。交流会には08年度・09年度受賞の方々にも参加いただき、実践者の皆さんと有識者メンバーが意見交換をしながら、交流を深める場となりました。



実践者同士、また有識者メンバーを交えて、活動について意見交換が行われていました。

# 子どもたちの「こころを育む活動」 2010年度 受賞事例

「こころを育む総合フォーラム」では、全国各地で実践されている子どもたちの「こころを育む」活動を募集し、

優れた事例を支援し紹介する全国運動を展開しています。

審査・選考は、子どもたちの「こころを育む」活動であること、

進める工夫・広げる工夫・続ける工夫が認められることなどを基準に行われます。

第三回となる2010年度は、個人の部から奨励賞1名・個人賞1名、

団体の部から奨励賞6団体・ブロック大賞5団体が選出され、

もっとも優れた活動として特定非営利活動法人 オバパト隊が全国大賞に選ばれました。

子どもたちの「こころを育む」活動の輪がさらに広がることを願い、

10年度の全受賞事例をご紹介します。



#### アイコン説明

受賞事例紹介ページでは、「活動領域」と「活動を通して育むことができる3つのところ（くわしくは6ページ）」をアイコンで表示しています。

#### ●活動領域

- 🏠 家庭
- 🎓 学校
- 🌳 地域
- 🏢 企業

#### ●3つのところ

- 👤 自分に 向かうところ
- 👥 他者に 向かうところ
- 🌍 社会に 向かうところ



毎日の見守りパトロール  
平均年齢73歳の女性129名によるパトロール隊「オバパト隊」が、安全な子育て環境づくりを目指し、校区の見守りパトロールをはじめとしたさまざまな活動を展開しています。

## オバパト隊 (オバタリアンパトロール) ～守るつもりが守られて～

# 高齢女性パトロール隊による、 安心安全な子育て環境づくり

### ●活動領域

家庭 学校 地域 企業

### ●3つのところ

自分に 他者に 社会に  
向かうところ 向かうところ 向かうところ

### 活動紹介その1

#### 未来を託す宝である、子どもたちを守りたい

「オバパト隊」は、2005年に下川邦子さんが結成した、地域の女性によるパトロール隊です。子どもが巻き込まれる事件の増加に、下川さんが「今、私たちがやらなければ誰がやる」と地域に呼びかけ、43名からスタート。現在では、平均年齢73歳の女性129名が隊員として参加しています。子どもを育てるた

めの安心安全な環境を作り次世代に引き継ぐこと、食育を通して子どもや高齢者の心と体を元気にすること、地域のつながりが希薄化した現代に「向こう三軒両隣り」の豊かな心を取り戻すことなどを目指し、見守りパトロールをはじめとしたさまざまな活動を展開しています。



地域の防犯意識高める  
下校時の見守りパトロール。隊員のほか、連携する防犯協会によるパトカーの巡回も行われています。

### オバパト隊のキャッチフレーズ

- ◎「気負わず力まず無理をせず」長く続けよう
- ◎「パトロールに金はいらぬ、元気な体と心があれば」
- ◎「人の子孫も、我が子孫も、みな同じ」
- ◎「オバパト隊守るつもりが守られて」

私たちがやらなければ  
「私たちがやらなければ誰がやる」と地域に呼びかけ、「オバパト隊」を結成した下川邦子さん。

### 活動紹介その2

#### 隊員の能力を活かして、多彩な活動を展開

教育・料理・洋裁など豊かな経験を持つ隊員たちの力を活かし、子どもの心と体を守るための活動を軸としながら、高齢者や地域を対象を広げ、多彩な活動を行っています。活動資金は、行政や地域に頼らず、隊員たちがリメイク創作した服を販売することでまかっています。また、小中学校・教育委員会・警察・行政・社会福祉協議会・防犯協会など地域の団体と連携し、地域に活動の輪を大きく広げています。

### 「オバパト隊」のさまざまな活動

#### ●子どもと高齢者の見守りパトロール

毎日昼夜、校区の見守りパトロールを行い、子どもと高齢者へ声かけを行っています。防犯協会と連携し、パトカーでの巡回も行っています。



#### ●着物リメイク服の制作・販売

活動費を作るために、隊員と地域の高齢者が昔の着物を現代の洋服にリメイク創作して販売しています。創作活動は、高齢者の認知症防止ともなっています。



#### ●食育研修会の開催

「体作り・骨作り・心作り」をテーマとして、地域の幅広い世代を対象とした食育研修会を行い、子どもや高齢者の心と体を健康にすることを目標としています。



#### 地域に活動情報を発信

さまざまな活動について、ホームページや機関紙などで情報を発信し、活動の輪を広げています。

#### ●「小さな小さな光の玉の話」講演

「人は誰もが素晴らしい光の玉を持っている。生きるということはそれを見つける旅」という話を通して、生きる希望や命の大切さを伝えています。



#### ●「オバパト大学」開講

女性グループ「オバパト隊」に対して、男性も参加できるグループを組織。勉強会や交流を通して、防犯に対する地域の意識を高めています。

#### ●「わんわんパトロール隊」結成

犬の散歩をしながら見守りパトロールをする新たな活動を提案。隊員数の拡大や「オバパト隊」との連携を目指しています。

#### ●活動の意義と楽しさを伝える講演

活動の意義と楽しさを伝え、「オバパト隊」を全国に広めるために、行政機関などを対象とした講演を行っています。

#### ●不登校児童向け勉強会

#### ●エコ商品開発 など

## 参加した子どもたちの声

### 防犯活動について

**帰**り道、暗くなっても家の人が迎えに来ないので、何かあったかなと思って一人で帰っていると自転車のおじちゃんが寄ってきて「可愛かね～」と言いました。「送ってやろか、後ろに乗れば」「あなたのお父さんの友達だから」と言います。(中略)「心配せんでいいよ迎えに行ってくれと頼まれたんだから」と言います。本当？って思ったが、オバパトかあちゃんの話思い出して「そんなら、うちのお父さんとお母さんの名前は知ってるね」と大きな声で聞きました。「うーん、ちょっと忘れた」とそのおじちゃんはいいました。「うそだ!!」とすぐわかりましたので「ア～！お父さんが迎えに来た、お父さ～ん」と大きな声で叫んだら、そのおじさんは自転車の向きを変えて逃げて行きました。光の玉の話の時の防犯術の話もしっかり聞いてメモしてよかったアリガトウ。走って家に帰るとお母さんが家の前まで出てきて立っていました。「ごめんね 迎えが遅くなって寒かったろうと私の手をしっかりとぎりしめてくれました。そのお母さんの手があまりにあつかくて泣きそうになりました。ウレシカッタまだドキドキしています。

(小学校6年生の手紙より抜粋)

- ぼくは、大きくなったらかならず、じじパトになります (小学生)
- オバパトのおばちゃん達は、もうババパトだろう！お疲れさん、ありがとう、がんばってね！ (パトロール中に、小学生から)
- オバパトのおばちゃん毎日ご苦労さまです。私たちは日頃のありがとうの気持ちを伝えるため毎日音楽を練習してきました。いっしょに給食を食べて私たちの演奏を聴いてください

(隊員一人ひとりに届いた、感謝コンサートの案内状)



### 活動紹介その3

#### 地域での確かな成果を受け、活動を全国へ

公園や空き地で問題行動をくり返していた子どもたちに、毎日辛抱強く話しかけ、褒め続けることで、子どもの問題行動がなくなりました。地域で大人と子どもが自然に挨拶し合ったり声かけをするようになり、住民の交流が深まっています。盗難自転車や空き巣の減少など治安がよくなり、子どもが犯罪に巻き込まれる件数も減少しました。こうした活動の充実や成果に、隊員たちも満足感や癒しを得て「守るつもりが守られて」います。若い世代への活動引き継ぎを視野に入れ、さらに「全国をオバパト隊でうじゃうじゃにする」夢を目指し、講演などを通して活動を呼びかけています。



子どもたちの声も活気に  
パトロールなど活動中に交わす対話や、子どもたちから  
の手紙が、隊員の大きな活力的になっています。



若年層の取り込みも  
若年層を取り込み、活動を継続していくために、「わんわんパトロール隊」など新たな活動を始めています。

### 講演活動について

- ぼくも、素晴らしい物の秘められた光の玉を持っていると思うと勇気が出ました (小学生)
- 私は、私の光の玉をつぶさないように大切にします。人の光の玉もつぶさないように人にもやさしくします (小学生)



**オ**バパトのかあちゃん、ついにぼくはぼくの光の玉を見つけました。

本当のところ親にはガンガン怒られるし学校に行っても勉強は解らないし、面白くないし、スポーツはできないし、友達もいないし、ぼくの居場所がなくていっそのことどこか遠くへ海か山の中にしずんでしまいたいと思っていました。その時オバパトかあちゃんの話聞いた時、ぼくは本当に光の玉なんてないと思ってました。でも、ひょっとしたら何か一つだけでも持たせてあるかもしれないと思うようになりました。何日も何日もそんな事を考えたりしていたある日、机の上で落書きをしながらよく見ると、その落書きの動物や花の絵がぼくに、にこにこ笑いかけた様な気がしたのです。面白くて次々にいろんなものを書いてみました。「ふう！うまいな」と自分で思ったのです。「マンガが描けるかもしれない、そうだボクはマンガ家になろう」と思ったのです。(中略)いつかマンガで賞をとってオバパトかあちゃんに入れ歯を買ってやりませう。それまでガンバッてください。

(中学2年生の手紙より抜粋)

### 3つの工夫

#### 進める工夫

目的意識の共有により、  
隊員は自発的に活動

「未来の社会を託す大事な宝である、生まれてきた子どもを守りたい」という思いを共有しながら、129名の隊員が協力して活動を展開しています。隊の参加には意志の確認や審査を行い、また隊員になると「認知症サポーター」の研修を受け、目的意識の共有や活動内容の向上を図っています。毎月勉強会を開催し、さまざまなテーマで研修を行うほか、家族・仲間・健康などへの感謝を再確認し合い、自発的な活動への活力としています。

#### 広げる工夫

地域と連携し、  
世代を超えたネットワークづくり

小中学校・教育委員会・警察・行政・社会福祉協議会・防犯協会など地域のさまざまな団体と連携し、活動の輪を広げています。活動の意義と楽しさを伝えるため、行政機関などを対象とした講演を行っており、2009年度は全国78ヶ所へ出向きました。「オバパト」の名に抵抗を感じる若い世代にもネットワークを広げるために、「わんわんパトロール隊」を結成し、また食育研修会では多くの試食品を用意して参加を募るなどの工夫を図っています。

#### 続ける工夫

若年層の取り込みも視野に、  
無理せず楽しく

「力まず気負わず無理をせず」をテーマに、活動の継続を目指しています。若い世代の取り込みや活動の引き継ぎも視野に入れ、「わんわんパトロール隊」など新たな活動を増やしています。自由な活動を継続して行うために、助成金などに頼らず、隊員らが着物をリメイクして服を制作・販売することで、活動費をまかなっています。「ふれあい公園作り」など、常に新たな目標を掲げることで、隊員のモチベーションを高め、また地域を活気づけています。

●所在地：〒892-0913 熊本県熊本市尾ノ上1-39-15 ●TEL：096-381-2447  
●E-mail：skt@purple.plala.or.jp ●HP：http://www.10.plala.or.jp/obapato/  
●代表者(担当者)：下川 邦子



**商品の開発と販売**  
生徒たちが、地域の特産物について学びながら、それらを生かした「飛鳥ブランド商品」を考案、地域商工会の支援を受けながら商品化し、販売するまでを体験しています。

## 地域の特産物を生かした「飛鳥ブランド商品」の開発と販売学習 ～地域商工会とのコラボレーションを通して～

# 郷土愛を育む、 地域ブランド商品づくり

### ●活動領域

家庭 学校 地域 企業

### ●3つのところ

自分に 他者に 社会に  
向かうところ 向かうところ 向かうところ

### 活動内容の紹介

#### 地域と協働で、特産物を生かした商品を開発

生徒たちが、地域の特産物を生かした「飛鳥ブランド商品」を考案し、地域商工会の支援を受けながら商品化し、販売までを行っています。地域の特産物を調べ、それが生み出され、受け継がれた歴史や地域性、それを守り伝えてきた人々の苦勞と工夫を学ぶことで、郷土を愛し、誇りに思う心を育むことを目的としています。また、多くの人々とかかわる中で社会性を広げ、積極的に自己を表現し、自分の思いを伝えることのできる逞しさを身につけることを目指しています。



**班ごとに商品考案**  
生産者への取材などを行い地域の特産物について学びながら、班ごとに「飛鳥ブランド商品」の構想を練ります。

### 活動の広がりなど

#### 郷土愛を育み、自己表現を学ぶ体験学習

生徒たちは、地域に数多くの素晴らしい特産品があることを知り、またそれらを支える地域の人々の存在を知ること、郷土愛と感謝の気持ちを育んでいます。明確な目標を目指して、仲間と協力しながら学習に没頭し、創意工夫を凝らし、自分の思いを相手に伝えようとする体験を通して、校風である“自主・自立”の姿勢が学習面にも浸透しています。地域の特産物を生かした活動により、保護者・地域に評価され、活動支援のネットワークが広がっています。



**考案した商品をPR**  
商工会や保護者の前で、考案した商品について、素材の良さや販売戦略などのプレゼンテーションを行います。



**全国販売など活動発展**  
アンテナショップや地域物産館での販売、また全国ネット販売など、活動が広がっています。



**地域商工会が協力**  
商品の開発を行う商工会と、試食会や打ち合わせを行い、販売実施に向け商品の改良を行います。

#### 文化祭で販売

交流のある東京の私立田園調布学園の文化祭で、商品を販売。チラシやポスターの制作も行っています。



### 参加した子どもたちの声

■試食会で全てを試食し、どれもおいしい物ばかりでしたが、その中でもひときわ輝いていたのが「もっちチェリー」でした。周りは柔らかく、サクランボの香りが味をそそるものでした。中にはあんことサクランボが奏でる味のハーモニーでした。おいしかったです。  
(2年生男子の感想文より)

■春から企画してきた「飛鳥ブランド」も、先日、田園調布学園に訪問し幕を閉じました。訪問の際は、目標であった完売を達成し、最高の終わり方でした。また、パフォーマンスから販売を通して、学園の方に酒田のよさをたくさん知ってもらえたと思います。この企画は私達の学年にとってもよい経験となり、これからの活動に活かしていきたいです。  
(2年生女子の感想文より)

### 「飛鳥ブランド商品」開発学習

- 1 総合的な学習のオリエンテーション**  
商品開発から販売までの流れを確認し、地域の経済や特産品について学びます。開発プロジェクト班を編成し、活動を開始します。
- 2 「飛鳥ブランド商品」のイメージ化（「商品設計図」の完成）**  
プロジェクト班ごとに、開発研究・販売戦略など役割分担し、地域生産者への取材などを行いながら、自薦する「飛鳥ブランド商品」を決定します。
- 3 「飛鳥ブランド商品」のプレゼンテーション**  
商工会や保護者を招き、地域施設でプレゼンテーションを実施。商品名・素材の良さ・販売戦略などについて、パフォーマンスを入れてPRします。
- 4 販売戦略会議**  
商品の開発を行う商工会と商品販売に関する打ち合わせを行い、商品価格や生産数を決定。販売実施に向け、生徒による戦略会議を行い、販売準備をします。
- 5 「飛鳥ブランド商品」の試食会**  
商工会を招き、「飛鳥ブランド商品」の試食会を実施。試食の感想を受け、商品の改良加工を行います。
- 6 販売までの事前準備**  
東京の私立田園調布学園での販売に向けて、紹介パフォーマンスの練習や紹介チラシ・ポスターの制作などを行います。
- 7 「飛鳥ブランド商品」の販売**  
私立田園調布学園の文化祭で、「飛鳥ブランド」5商品を販売し、完売。その後、「飛鳥ブランド商品」が全国販売されるなど、活動が展開しています。

### 3つの工夫

#### 進める工夫

「郷土愛と豊かな自己表現」という2つのねらいを達成することを目指し、地域と連携しながら活動を進めています。調べて終わりの学習ではなく、調べて分かったことを活かし、自ら考えた商品を現実化し、販売を行うという、見通しが明確であり、夢を感じられるプログラムを構成しています。

#### 広げる工夫

総合支所、産直農家、地元商工会などと連携し、生徒が直接コミュニケーションを広げ、実感・納得のある学び体験ができるよう工夫しています。交流の深い私立田園調布学園に依頼し、学園文化祭で販売を行いました。活動を通して地域にネットワークが構築され、地域を元気づける活動に発展しています。

#### 続ける工夫

前年度に商品化された「飛鳥ブランド商品」が地元物産館等で販売され話題を集める中で、生徒たちは意欲的に商品開発に取り組んでいます。2012年度の新学習指導要領の完全実施をふまえ、09年度から11年度の3年間における活動の実績と目標を引き継ぎながら、学習の見直しを考えています。



**多面的な活動を展開**  
道徳教育を柱に、家庭・地域と連携しながら、多面的な活動を行っています。「おやじの会」の協力により、学校で実施したサマーキャンプには、多くの子どもたちが参加しました。

## 「豊かな心を育む」特色ある教育活動の実践 ～学校・家庭・地域とのたしかな結びつきを通して～ 学校の教育活動全体を通じた道徳教育

### ●活動領域

家庭 学校 地域 企業

### ●3つのところ

自分に 他者に 社会に  
向かうところ 向かうところ 向かうところ

### 活動内容の紹介

#### 絆を深める学校づくりを目指して

「規律ある生活を基盤に、人とかかわりを学び、伝え合い、絆を深める学校づくり」をテーマとして、特色ある教育活動を実践しています。「学校経営の核となる道徳教育の推進」など5つのテーマ（くわしくは右ページ）を柱に、家庭・地域と連携しながら、多面的な活動を行っています。母校に誇りを持ち、地域・郷土を支え、発展させていく子どもたちを育むために、「人とかかわる力を教え、ふるさとに学び、ふるさとを創る特色ある学校づくり」という大テーマを目指し、活動を推進しています。



体験活動に地域が協力  
サマーキャンプでは、「おやじの会」など地域が協力し、流しそうめんなどの体験活動を実施しました。

### 活動の広がりなど

#### 学校・家庭・地域で育てる道徳教育

校内外でのさまざまな取り組みの継続により、教育活動が体系化され、また家庭・地域への広がり・啓発も進んでいます。2009年度より、学校の体育館に宿泊するサマーキャンプの実施や、「南校スクールネットワーク」を組織するなど、新たな取り組みも始めています。核となる道徳教育では、道徳公開授業を定期化したほか、「全国道徳特別活動研究会全国研究大会(2010年)」を開催し、保護者と地域にも公開。学校・家庭・地域で育てる道徳教育の輪を広げています。



**縦割り活動で異学年交流**  
異学年グループで遊びや給食、清掃、集会などを実施することにより、異学年交流を深めています。



**伝統の人形作りを体験**  
5年生が体験する人形作り。専門家を招き、保護者ボランティアが協力して伝統の手工芸体験を実施しています。



育てた菊を地域へ5・6年生が育てた菊を、地域に届けます。植物の世話を通じて自然にふれ合い、また人とふれ合う活動です。



地域行事への参加  
地域の「おとりまつり」に、児童と職員が参加。5年生がグループごとに総合発表会を行いました。



### 参加した子どもたちの声

■校長先生や他の先生との授業は、先生方の話が聞けて、よく考えることができました。授業を受けて、私も、物を大切にしたり、友だちにやさしさを広げていきたいです。(道徳授業について)

■縦割り活動は、南校の自慢です。縦割り清掃では、高学年が下級生に掃除の仕方を教えています。縦割り清掃、縦割り集会、縦割り給食、縦割り遊びでグループの友達は、みんな仲間です。(縦割り活動について)



### 特色ある教育活動の5つの柱

#### 1 学校経営の核となる道徳教育の推進

「南校道徳教育のシラバス」の配布、授業参観日や学校公開日での道徳授業の公開、教師・地域人材・保護者との協働道徳授業、講師を招いての研究会などを実施。学校の教育活動全体において、道徳教育を推進しています。

#### 2 心豊かな子どもを育む特別活動(縦割り活動)の推進

学年を縦割りにした異学年グループを構成し、縦割り清掃・縦割り給食・縦割り遊び・縦割り集会などを実施。年間を通じた異学年交流により、子どもたちの思いやりの心を育てています。

#### 【埼玉県教育振興基本計画の三つの施策】

#### 3 教育に関する3つの達成目標(規律ある態度の育成)の推進

「南っ子 授業の6つの約束」を定め、「生活目標のふり返りカード」を作成し自己評価を行うなど、規律ある態度づくりに取り組んでいます。

#### 4 埼玉の子ども70万人体験活動の推進

職場体験・勤労生産体験・社会奉仕体験・交流体験・自然体験・文化芸術体験など、児童の発達段階に応じたさまざまな体験活動を行っています。

#### 5 5つ(自然・人・本・家族・地域)のふれあい県民活動の推進

ホテル鑑賞会・人形作り・図書ボランティアによる読み聞かせ・親子清掃活動・地域行事への参加など、各分野にふれあう体験活動を行っています。

### 3つの工夫

#### 進める工夫

子どもたちに基本的な生活態度を身に付けさせ、規範意識を高めると共に、他者を思いやる心や感動する心など豊かな人間性を育むため、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を重視しています。教育活動に5つの柱を設け、各取り組み計画を提案し、校内外へ共通理解を図っています。

#### 広げる工夫

校長・教職員・保護者参加型の授業実践、保護者や地域の人々を対象とした道徳の授業や講演会を行い、道徳教育を広げています。2009年度より「南校スクールネットワーク」を組織し、学校・家庭・地域の結びつきを体系化。学習補助や登校指導などに、多くの保護者と地域の人々が参加しています。

#### 続ける工夫

1999年・2000年度に文部省「道徳教育推進実践研究協力校」指定を受け、家庭・地域と連携した道徳教育の実践研究を続けています。道徳教育についての基本方針や重点目標、活動内容を学校だより等の配布物や学校ホームページで発信し、広報・啓発活動を続けています。



**各世代向けの体験活動**  
子どもをはじめ、妊婦や親子など幅広い世代を対象として、さまざまな体験活動を行い、「みんなでここに子育て子育て」を進めています。写真は、親子でのクリスマスツリー作り。



**200 家族が参加「積み木であそぼう」**  
夏休みに実施した積み木あそび体験「積み木であそぼう」には、1週間で200家族が参加しました。



**子ども・親子・高齢者の交流**  
小学生親子と中・高校生が、高齢者施設の夏祭りにボランティアとして参加。多世代での交流を深めました。

育児支援のためのさまざまな活動

- **工作・体操・絵・英語・野菜収穫などの体験活動の開催**  
ほかにも、リトミック・書・積み木など、年齢や曜日ごとに、子どもや親子で参加できるさまざまな体験教室を開催しています。
- **「あそびっこ広場」の開催**  
放課後に、異年齢の子どもと親子と一緒に遊べる場を提供しています。2009年度は月・金曜に開催し、月に約300人が参加しました。
- **「あらいっこあそび虫協議会」の運営**  
地域教育推進協議会・あらいっこあそび虫協議会の運営事務局として、地域団体やボランティアと協力し、育児サークル支援を行っています。
- **妊婦や乳幼児の親向けの子育て活動の開催**  
妊婦と乳幼児の親を対象に、子育てや子どもの発育、医療などについて学ぶ場を提供。ホームページや機関誌でも情報提供を行っています。
- **子ども・親子・高齢者の多世代交流**
- **青少年ボランティアの受け入れと育成 など**



**子どもが笑顔で育つ  
場面づくり**  
遊びや創作、運動など子どもたちそれぞれが認められる場面を作り、育つ力をサポートしています。

地域 みんなでここに子育て子育て

親子体験事業で、  
子育て環境の充実を

●活動領域

- 家庭 ● 学校 ● 地域 ● 企業

●3つのところ

- 自分に ● 他者に ● 社会に

活動内容の紹介

子どもの発達と親の育児力育成を支援

妊婦、乳幼児、小学生とその親、家族、および青少年に対して、遊びの場や情報を提供することにより、子どもの発達と親の育児力形成を支援しています。あらゆる世代の「みんなでここに子育て子育て」をテーマに、子どもや親子で参加できる体験教室をはじめ、放課後の遊び場づくり、子育て教室、青少年ボランティア育成、高齢者施設訪問など、さまざまなプログラムを行っています。こうした活動により、子どもと親が暮らす地域全体の福祉向上を目指しています。



**「あそびっこ広場」で  
異年齢交流**  
異年齢の子どもと親子と一緒に遊べる「あそびっこ広場」。中学生ボランティアが参加しています。

活動の広がりなど

地域ぐるみで子育てできる環境づくり

2003年に2歳児の親子を対象とした活動を開始以来、子どもの成長にしたがい拡大するニーズに対応し続け、現在では幅広い世代を網羅する活動を展開しています。地域に支援者・応援者も増加し、会員は270家族を超えました。地域や各種団体の評価を受け、静岡県補助事業のほか、各種団体の補助事業、助成事業を開催しています。さらに、父親が参加しやすい親子体験活動や、ボランティアの受け入れ・育成に力を入れ、地域ぐるみで子育てができる環境づくりを進めています。



**親子を対象とした  
体験活動**  
親子を対象とした活動を積極的に実施。親子大運動会には、1、2歳児も参加し親子120人が楽しみました。



参加した子どもたちの声

(子どもたちの声)

- できなかったブリッジを家でも練習してできるようになって、お母さんにもポレポレの先生にもほめてもらって、うれしかった。
- 私が小学2年生のころから毎年ボランティアできてくれているお姉さんと、来年中学生になったら一緒にボランティアとして活動できるのでうれしい。

(保護者の声)

- 家ではできない野菜の収穫に、毎年家族みんなで参加しています。子どもが食べられなかった玉ねぎも、自分で収穫したら食べられるようになりました。
- 年齢が離れていても兄弟一緒に参加でき、家でもポレポレの話をしたり、一緒にあそぶようになりました。



自然と命の大切さを体感  
水槽に入った海の生物に触れる「出前水族館」や漁船での自然体験「底引き網漁体験学習」を通して、生物や自然を体感する場を提供し、自然と命の大切さを伝えています。

## 播磨マリンクルー出前授業及び底引き網漁体験学習 地域の自然と 生き物に触れる体験学習

### ●活動領域

家庭 学校 地域 企業

### ●3つのところ

自分に 他者に 社会に  
向かうところ 向かうところ 向かうところ

### 活動内容の紹介

#### 海の生物を水槽で運ぶ「出前水族館」

地域の小学校などを対象に、「出前水族館」などの出前授業と「底引き網漁体験学習」を行っています。出前授業では、海の生物に触れることができる「出前水族館」を主に、音遊びなどのプログラムを実施しています。「底引き網漁体験学習」は、漁船に乗り海と海の生物に触れる自然体験プログラムです。活動を通して、自然環境の変化などにより生物と触れ合う機会が少なくなった子どもたちに、生物に触れ自然を体感する場を提供し、自然と命の大切さを伝えています。



海の生物を見て、触れる「タッチプール」水槽「タッチプール」を使った「出前水族館」。高砂沖に棲む海の生物を体感できます。

### 活動の広がりなど

#### 地域特性を活かし、広がる活動

地域の特色を活かしたユニークな活動によりテレビなどで取り上げられ、認知が広がりました。高砂市内の保育園・幼稚園・小学校のほか、現在は市外からも依頼を受け、各地で出前授業を行っています。出前授業を開始した当初は「出前水族館」のみでしたが、作曲家など専門家の参加によりプログラムを増やし、100名以上の子どもたちが楽しめるようになりました。子どもはもちろん保護者にとっても、地域の自然や生物に触れる貴重な機会となっています。



地域の自然を体験「底引き網漁体験学習」漁船に乗り、高砂沖の底引き網漁を体験。地域の漁業関係者や料理家が活動に協力しています。



海の生物などを切り絵で表現  
出前授業は、「タッチプール」の待ち時間をなくすため、切り絵や音遊びなど複数のプログラムを用意しています。



五感を養う  
体験プログラム  
季節の自然や行事を表現する折り紙体験。五感を養い、自然環境や命の大切さを学ぶ場を提供しています。



メンバー増加でプログラムが充実  
出前授業では、メンバーが知識や経験をいかし、さまざまな体験プログラムを実施しています。



#### 参加した子どもたちの声

- サメは、ざらざらしていた。目がこわかった。
- タコは、吸盤で吸いついてくる。墨を吹きかけられた。
- たつのおとしごもおよいていたよ！たのしかったよ。
- （魚などを）さわらせてくれて、ありがとう。



### 出前授業

#### 出前水族館

タツノオトシゴ・タコ・アナゴ・サメ・エイ・カニなど高砂沖に棲む海の生物を、水槽「タッチプール」に入れ会場に持ち込む移動型的水族館で、さまざまな生物を「見て」「触って」体感することができます。また、タツノオトシゴやタコの出産シーンなど、海の生物の珍しい映像を鑑賞します。

#### 音遊び

貝殻で楽器を作り演奏したり、波の音やイルカの鳴き声といった海の音を聞くなど、音を聞いたり作ったりする楽しさを伝えます。

#### 切り絵

海の生物を切り絵で精巧に表現して紹介します。

#### 折り紙

年齢や季節に合わせた折り紙を体験します。



こんな切り絵ができます。



折り紙 ペンギン

### 高砂沖底引き網漁体験学習

きて、みて、さわって！海の生き物」をテーマに、海を五感で体験するプログラムです。底引き網漁船に乗り、さまざまな海の生物に触れ、高砂沖の自然を体験します。また、獲れた魚介類を使って、料理教室と試食会を行います。

### 3つの工夫

#### 進める工夫

子どもたちの五感を養い、自然環境や命の大切さを学ぶ場を提供することを目的として、さまざまな体験プログラムを実施しています。出前授業では、「出前水族館」など4つのプログラムを順番に回るよう構成し、大人数の子どもたちが飽きずに参加できるよう工夫しています。

#### 広げる工夫

多くのテレビ番組に取り上げられたことから認知が広がり、地元高砂市のほか、たつの市や姫路市からも依頼を受け、出前授業を行っています。2008年度には2,000人以上、2009年度には3,000人以上の子どもと保護者、職員などが「出前水族館」を体験しています。

#### 続ける工夫

活動メンバーの増加により、プログラム数を増やしています。底引き網漁体験では、地域の漁師や料理家、学生ボランティアを集め、活動内容の充実と安全を図っています。漁協組合などと連携し、生物を安定して確保することで、活動の継続と拡大を目指しています。



命を伝える「命の授業」  
犯罪被害者遺族が学校などに出向き、命について語りかける「命の授業」を行っています。学校や地域と連携しながら、子どもたちの自尊感情を育むことを目指し活動しています。

## 命の授業プロジェクト ～犯罪被害者遺族による心と命の教育活動～

# 犯罪被害者遺族が語る、 命の授業

### ●活動領域

家庭 学校 地域 企業

### ●3つのところ

自分に 他者に 社会に  
向かうところ 向かうところ 向かうところ

### 活動内容の紹介

#### 命を伝え、自尊感情を育む

犯罪被害で子どもを亡くした遺族が、「同じ体験をしてほしくない」という思いから、伴走ボランティアと共に学校などに出向き、子どもや職員、保護者を対象に、命を伝える「命の授業」を行っています。命を大切にしてほしいというメッセージを一人でも多くの子どもたちに届けること、また、学校や地域の人々と連携しながら、子どもたちを被害者にも加害者にもしない心の輪を広げること、さらに、子どもたちの自尊感情を育むことを目指し、各地へ出向いて活動を展開しています。

### 活動の広がりなど

#### 4者協働事業として活動が発展

備前県民局との協働事業として行っていた「命の授業」の実績を内閣府に報告したことから、岡山県警・岡山県教育委員会・岡山県との4者協働事業として発展。「心と命の教育活動」としてモデル事業となったことで講演先が広がり、県内外110校、50,000人を超える子供たちが「命の授業」を体験しています。「子どもたちの心に蒔いた種に水をやり、育てていくのは家族や地域の大人たち」という思いから、地域団体や教職員研修会へ講演先拡大を目指しています。



命の大切さを語りかける授業  
「命の授業」では、犯罪被害の悲惨さではなく、子どもを育てる親の思いや、子どもが抱えていた悩み、家族や友達の悲しみなどを丁寧に語ることで、メッセージを伝えていきます。



### 参加した子どもたちの声

■手を合せてくださいと言われたとき、黙祷をするのだと思ったのだけれど違いました。市原さんは私たちにこの手のぬくもり、つながりを教えてくれました。私は少し恥ずかしくなりました。市原さんは私情を話すことより私たちに、生きていることを伝えることを選んでいるのだと感じました。相手を思いやり、誰かを傷つけない、そういう社会にしていこうと改めて思いました。(中学3年生)

■私は、祖父のことを思い出しました。祖父が冷たくなって帰ってきたとき、私はその手をにぎったり、触れたりすることができませんでした。亡くなったことを認めてしまうことが怖かったのかもしれない。自分の中にまだ祖父が亡くなったことを否定している自分がいることに気付かされてしまい、涙をおさえることができませんでした。生きているということがどういうことなのか、死んでいるということがどういうことなのか、これからは私は自分にとり続けることだろうと思います。(中学3年生)

### 当事者が実体験を語る「命の授業」

犯罪被害者遺族が自ら、命について語り、子どもたちと交流しています。「命の授業」では、犯罪被害の悲惨さではなく、命の誕生、子育て、進路や友人関係の悩みや不登校、いじめや暴力の実態、子どもの死と家族や友達の悲嘆、支えてくれた子どもたちとの関わりなどを丁寧に語ることで、一人ひとりの「手のぬくもり」、生きているということを伝えていきます。中学校・高校のほか、小学校、大学、地域の子ども会など県内外へ講演先を広げています。



4者協働事業となり活動に広がり  
「心と命の教育活動」モデル事業として、県内外に活動を広げています。さらに、子どもだけでなく地域の大人を対象とした講演活動の拡大を目指しています。

### 3つの工夫

#### 進める工夫

子どもたちの自尊感情を育む視点から、犯罪被害者遺族が自ら語りかけることで、子どもたちへ命を大切にしてほしいというメッセージを伝えていきます。「命の授業」実施に際しては、事前に学校と打ち合わせを行い、また実施後に子どもたちから感想文を集め、内容の確認や検討を行い、充実を図っています。

#### 広げる工夫

活動開始当初、「重い話」として学校等に受け入れられない中、行政と協働で青少年相談員に講演したところ、口コミで認知が拡大。その実績を内閣府に発信したことから、岡山県警・岡山県教育委員会・岡山県との4者協働事業となりました。その結果、講演先が全国に広がっています。

#### 続ける工夫

子どもたちだけでなく、地域団体や教職員研修会への講演など、地域の大人に語りかけ、地域社会に働きかける機会を増やすことを目指しています。安心して想いや悲しみを共有できる暖かな地域づくりに向けて、全国で同じような取り組みをしている団体・個人と「語り手ネットワーク」を作ることを考えています。





ホームステイを通し交流  
子どもたちは、学区内の  
仮親宅で二泊三日のホーム  
ステイを体験します。仮親  
宅から通学し、家事の手伝  
いなどをしながら仮親と共  
に日常生活を送ることで、  
交流を深めています。

近所に泊まろう! 地域ホームステイ「子どもたちにたくましく豊かな心を!」  
～地域と共に築こう。明るい豊かな札幌の創造!～

## 地域でできる、 こころを育む社会体験の場づくり

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのこころ

自分に 他者に 社会に  
向かうこころ 向かうこころ 向かうこころ

活動内容の紹介

### 地域の仮親宅で、二泊三日のホームステイ

地域の大人が仮親となり、子どもたちが二泊三日のホームステイを体験する「近所に泊まろう! 地域ホームステイ」事業を行っています。子どもたちに感動を与える社会体験活動の機会創出により次代を担う子どもたちの心を育むこと、また地域の人々に家庭や地域コミュニティの大切さを伝えることを目的に始めました。子どもたちは、事前に生活計画と目標を立て仮親宅から学校へ通い、ホームステイ中は勉強・遊びのほか、掃除・食事の配膳・片付けなど、仮親と共に日常生活を送ります。

#### 参加した子どもたちの声

- お手伝いを通して、そうじや家事など家の人の毎日の苦勞がわかりました。
- はじめは家族と離れて寂しかったけれど、家の人とお話ししたり親切にしてもらってうれしかったです。
- 仮親さんと一緒にいる時間がもっと長かったらいいなと思いました。
- 家でもやったことのないお風呂掃除が大変でしたが、おばちゃんに教えてもらいました。

#### 3つの工夫

##### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

事業の立ち上げに際しては、同様の事業を行っている静岡県磐田市を視察し、広報活動を積極的に行うことで、北海道初の地域ホームステイを実現しました。ホームステイ体験を充実させ、また成果を実感できるよう、ホームステイ前と後に子どもと保護者が話し合う機会を設けています。仮親の募集には、町内会など地域団体と連携し、参加者を広げる工夫を行っています。活動マニュアルを作成し、各団体に配布することにより、活動の普及を目指しています。

活動の広がりなど

### 交流を通して、自立性・社会性を育む

子どもたちは仮親宅での生活を通して、学校ではできない勉強、社会体験を得ることで、他人と共存するためのルールや困難に立ち向かう忍耐、感謝の気持ちを育み、自立性や社会性を学んでいます。活動参加後、自主的に物事に取り組むようになったり、仮親との交流を続けている子どももいます。また、保護者が家庭教育を見直し、地域の人々が「地域の子どもを地域で育む」意識を高める機会ともなっています。活動が広がり、より多くの子どもが参加できるよう、活動マニュアルや映像を作成し、発信しています。



高齢者による読み聞かせ  
高齢者ボランティア4団体が  
連携し、幼稚園や小・中学校  
などで、絵本の読み聞かせを  
行っています。子どもたちと  
交流しながら、戦争体験講  
話や読み聞かせ術指南など、  
活動を広げています。

シニア読み聞かせボランティア「りぷりんネットワーク」

## 絵本を架け橋に、 子どもも高齢者も元気に

●活動領域

家庭 学校 地域 企業

●3つのこころ

自分に 他者に 社会に  
向かうこころ 向かうこころ 向かうこころ

活動内容の紹介

### 読み聞かせを軸とした、世代間交流

「りぷりんネットワーク」は、高齢者が運営する4つのボランティア団体で構成されるネットワークです。東京都中央区・杉並区、神奈川県川崎市多摩区、滋賀県長浜市の4ヶ所を拠点に、高齢者ボランティアが地域の子どもたちへの絵本の読み聞かせを主とした活動を行っています。読み聞かせを通して、高齢者が次世代へ託したい思いや文化を伝えると共に、保護者も交えた地域の人々との世代間交流、また高齢者同士の絆や生きがいづくりと健康増進目指し、さまざまな活動を展開しています。

#### 参加した子どもたちの声

- 僕たちのことを毎回ほめてくれてありがとう。(小学生)
- 『あいしてくれてありがとう』を読んでもらって、友達の大切さ、そのありがたみをもう一度、改めて考えました。友達ほど大切な宝物はないと思いました。(中学生)
- 子どもが、「今日こんな絵本を読んでもらったよ」と話してくれます。毎週毎週、本当に、感謝しています。(保護者)

#### 3つの工夫

##### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

4つのボランティア団体が連携することにより、資源を共有しつつ、活動の継続と、読み聞かせ活動における質の維持・向上を目指しています。毎月行われる定例会では、情報交換や技術向上のための勉強会を実施しています。新人ボランティア養成講座を開催し、人材育成に努めています。おすすめの絵本や活動のノウハウをまとめた『子どもとシニアが元気になる絵本の読み聞かせガイド101選』(ライフ出版、2008)などを出版し、高齢者による読み聞かせ活動の普及啓発を行っています。

活動の広がりなど

### 4団体の連携による活動の継続・拡大

4団体の連携により、6年間にわたり活動が継続・拡大しています。各エリアでは、総勢205名の高齢者ボランティアが、幼稚園、保育園、小・中学校、児童館など、計60ヶ所の施設にて、絵本の読み聞かせ活動を行っています。また、図書館ボランティア、戦争体験講話、読み聞かせ術指南、地域イベントへの参加など、子どもたちや教職員と協働し、活動が広がっています。世代間交流を通して、子どもたちは多くのメッセージを受け取り、また高齢者ボランティアは大きな活力を得ています。



地域のイベントで披露  
保護者・地域の人々などの  
有志が、子どもたちに「さん  
さんさ」を指導しています。  
地域のイベントに参加する  
という目標を目指し、子  
どもと大人が一体となっ  
て取り組んでいます。

## 地域を愛し、地域に根ざした「東京さんさ黒門連」の活動 子どもと大人、 地域をつなぐ「さんさ」

### ●活動領域

家庭 学校 地域 企業

### ●3つのところ

自分に 他者に 社会に  
向かうところ 向かうところ 向かうところ

### 活動内容の紹介

#### 地域の有志が太鼓や踊りを指導

学校を活動場所として、保護者や地域の人々が子どもたちに「さんさ」を指導し、一緒に太鼓や踊りを楽しんでいます。参加を希望する子どもたちを対象に、週2回、学校の体育館や校庭で練習が行われ、「黒門小学校育ての会」の保護者・地域の人々・同窓生などの有志が指導にあたります。地域の「うえの夏祭りパレード」を目指し、子どもと大人と一緒に練習し触れ合う活動を通して、子どもたちのかかわり合う力と、地域を愛する心を育むことを目指しています。

### 活動の広がりなど

#### 親から子へ、受け継がれる郷土愛

活動は、親から子へ受け継がれ、25年間継続しています。大人たちに「さんさ」を教わり、太鼓を叩いて踊った子どもたちが、やがて親となり指導者となることで、活動を支えています。放課後の練習は子どもの居場所ともなっており、全校児童の約3分の1が、活動に参加しています。異年齢の子どもや大人とのかかわり合いの中で、子どもたちは思いやりの心を育み、成長しています。また、活動を通して、保護者・地域・同窓生・学校の結束が強まり、地域における教育力の基盤づくりにもつながっています。

### 参加した子どもたちの声

- 黒門小のさんさは、夏祭りパレードで準優勝でした。たくさんのグループが出たので、賞をもらえてよかったです。
- だんだんうまくなって、ほめられたのがうれしかったです。
- 道のまわりにたくさん人がいて、応援してくれました。がんばってやってよかったです。

### 3つの工夫

#### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

「黒門小学校育ての会」の保護者・地域の人々・同窓生が指導者組織をつくり、指導の計画や受け継ぎを行うことで、25年間にわたり活動が継続しています。目標を達成するとシールがもらえる「練習カード」を作成するなどし、子どもたちが楽しく活動を続けられるよう工夫しています。「うえの夏祭りパレード」に毎年参加するという目標を掲げ、子どもと大人が一体となって練習に取り組んでいます。さらに、学校の行事に特別参加するなど、活動の場を広げています。



ダンスや歌を体験  
子どもたちは、アメリカの若  
者たちによるダンスや歌の  
ワークショップを体験し、保  
護者らへミニショーを披露  
します。表現する喜びを体験  
し、病気を忘れられる時間を  
過ごしています。

## MUSIC & COMMUNICATION PROJECT 病気のある子どもへ 笑顔をお届けする院内プログラム

### ●活動領域

家庭 学校 地域 企業

### ●3つのところ

自分に 他者に 社会に  
向かうところ 向かうところ 向かうところ

### 活動内容の紹介

#### 表現する喜びを体験し、 病気を忘れられる笑顔の時間に

NPO 法人じぶん未来クラブが招聘するアメリカの非営利団体The Young Americans (YA)によるOutreach workshopを、病気のある子どもを対象とした院内参加型イベントとして実施しています。子どもたちは、ワークショップでダンスや歌など表現する喜びを体験し、その後のミニショーで、YAと一緒にパフォーマンスを披露します。子どもと保護者へ「病気を忘れられる、笑顔の時間」を提供すること、そして自信・希望・夢を持つきっかけをお届けすることを目的として、活動を続けています。

### 活動の広がりなど

#### 次世代の小児医療の ヘルスコミュニケーション向上を目指して

医療従事者とボランティアにより実行委員会を結成し、2008年度に第一回のプロジェクトを実施しました。その後、任意団体を設立し、毎年夏に国立成育医療研究センターでプロジェクトを開催しています。認知度と参加人数の増加に伴い、開催回数の増加や新規プロジェクトの企画を検討しており、そのための人材と資金を準備しています。さらに、将来はこの活動を、小児医療におけるヘルスコミュニケーション事業として展開、応用することを目的とし、活動の効果検証を行っています。

### 参加した子どもたちの声

- いつも検査等で嫌な病院ですが、3年前からは楽しい病院となっております。(保護者)
- 親子で昨年度から一年間ずっと楽しみにしていました。お友達も2組誘い、一緒に楽しめました!ずっとずっとこの活動が続きますように。(保護者)
- 初参加。笑顔になれる素敵なショーで感動しました。(保護者)

### 3つの工夫

#### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

2008年度に第一回のプロジェクトを実施以来、3年間の活動で認知が広がり、参加人数が増加しています。プロジェクト実施中の子どもたちの体調急変などに備え、医療従事者によるサポート体制を整えています。また、学生・教師・主婦などさまざまな知識と経験を持つスタッフが参加しており、資金集め・広報活動・募金箱設置・参加者募集など自分に合ったボランティア活動を進めています。広報と資金確保のための募金箱は、150もの店舗に設置の協力を得ています。



対話しながら作る舞台  
子どもに問いかけ対話する中で、子ども自身が物語の主人公になり、物語をつくり出していくユニークな舞台。劇中のゲームやダンスに参加したり、人形に触れたりすることで、劇の世界に引き込まれていきます。

## 人形劇のキャラバン公演 子どもを主人公にする、 参加型人形劇

### ●活動領域

家庭 学校 地域 企業

### ●3つのところ

自分に 他者に 社会に  
向かうところ 向かうところ 向かうところ

### 活動内容の紹介

#### ふれあう喜びと感動を届ける舞台

幼稚園、保育所、図書館、福祉施設、地域行事等全国へ出向き、人形劇を主とした公演を行っています。一方的に進めるのではなく、子どもたちに問いかけ対話しながら作る舞台を通して、人と人がふれあう喜びや感動を分かち合う体験を提供し、子どもたちの豊かな感性と自由な心を育むことを目指しています。人形劇の演目は「赤ずきん」などの童話のほかオリジナル作品があり、劇中に参加型のゲームを取り入れることで、子どもたちの興味を引き付け、楽しめるプログラム構成を行っています。

#### 参加した子どもたちの声

■公演を3歳の孫と見せていただきました。(中略)3歳で迷惑をかけるのでは？と不安でしたが、拍手や声かけもできて、そして前へ出てシュリケン体験までさせていただいて、私の方が孫の成長にびっくりして嬉しかったです。こんな小さな子でも飽きさせない工夫や、確かな演技の達者さに感動いたしました。また、来年を楽しみにしています。(保護者)

#### 3つの工夫

##### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

メンバーの会費や寄付を利用し、地域や各施設の協力で、無料の出前公演「ふれあいキャラバン」を年数回開催しています。メンバーの技術向上のため研修を行い、また新演目の制作や、0～2歳児向けプログラム研究会など、常に新たな取り組みを進めています。子育てに関わる人や地域で活動するアマチュアグループを対象に、人形劇装置・紙芝居・フィルムなどの道具を無料で貸し出し、技術指導を行っています。印刷物やホームページを活用し、広報普及活動を続けています。



準備作業を通して交流  
地域行事に子どもたちを参加させ、異世代間交流を進めています。小学生・中学生・高校生それぞれに、ゴミ箱設置・テント設置・やぐら作りなど役割を分担し、大人から積極的に声をかけ、交流を深めています。

## 子どもへのまなざし運動推進事業 地域行事を、 世代間交流と学びの場に

### ●活動領域

家庭 学校 地域 企業

### ●3つのところ

自分に 他者に 社会に  
向かうところ 向かうところ 向かうところ

### 活動内容の紹介

#### 共同作業でふれあい・理解し合い

北川副公民館運営協議会が中心となり「子どもへのまなざし運動推進事業」を立ち上げ、校区・町区における地域行事や各種団体による行事等に子どもたちを積極的に参加させ、異世代間の交流を通して「地域性・市民性」を育むことを目指し、さまざまな取り組みを行っています。まつりなどの地域行事では、会場準備の役割を子どもたちに分担し、作業中は大人から積極的に「出会い・ふれあい・理解し合い」を求めることで、世代間の交流を深めています。特に、各作業の終了後などに承認(感謝)し、大人と同等に対応することを大切にしています。

#### 参加した子どもたちの声

■大人は怖いと思っていたが、優しくかった。(小学生)  
■お礼を何回も言われて、うれしかった。(小学生)  
■こんな大掛かりなまつりの準備に参加でき、本番のまつりが楽しみです。(中学生)  
■「先は頼みますよ」と言われた。「任せね」と返事した。楽しみです。(高校生)

### 活動の広がりなど

#### 希薄化する地域社会に、子育ての輪

地域で行われるさまざまな行事に関して、子どもたちの参加が増え、また保護者の理解・参加も進んでいます。子どもたちは、大人の考えや思いに触れ、生きる力や他人を思いやる心を育んでおり、言葉使いや礼儀作法にも良い変化が表れています。また、季節毎の行事に参加し、地域の高齢者と交流する活動は、地域の歴史や文化を学び、郷土愛を育む機会ともなっています。活動の継続により、希薄化していた近隣社会が変化しつつあり、「大人全員で子どもたちを育む」地域の輪が広がっています。

#### 3つの工夫

##### 進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

1998年から展開してきた「子どもへのまなざし運動」をより一層充実させるため、2008年度に「子どもへのまなざし運動推進事業」を立ち上げ、自治会・各種団体と連携しながら、総合的に運動を推進しています。校区・町区・各種団体等から3～4ヶ月分の行事予定を集めて一覧を作成し、小学校を通して家庭に配布しています。また、「まなざしちゃんじカード」を配布し、行事に参加するたびにポイントを記載し、特に親子参加はポイントが2倍になるなど、楽しく参加できるよう工夫しています。



手作りの小道具を使って  
絵本のキャラクターを毛糸  
で編んで編みぐるみを作り  
、それを使った読み聞かせ  
を行っています。保育所  
などを訪問するほか、自宅  
「編んでるシアター館」でも  
活動しています。

## 絵本の編んでるシアター館 編みぐるみを活かした 読み聞かせ

### ●活動領域

- 家庭
- 学校
- 地域
- 企業

### ●3つのところ

- 自分に
- 他者に
- 社会に

### 活動内容の紹介

#### 絵本の素晴らしさを伝えるために

絵本に登場する動物などを毛糸で編み、それらを使った絵本の読み聞かせ活動を行っています。保育所・子育て支援センター・病院・子育てサークルなどを訪問したり、山小屋風に改装した自宅「編んでるシアター館」でも読み聞かせを行っています。絵本に忠実に編み上げることで、絵本の素晴らしさを子どもたちと子育て中の保護者、また障がいを持ち外出できない子どもたちへ伝えることを目指し、活動を続けています。

### 活動の広がりなど

#### 訪問と来館で参加者に広がり

各施設に訪問して読み聞かせ活動をする中で、「家族や友人同士で、絵本を楽しみ、会話を楽しむ時間を提供したい」との思いから、自宅を改装。暖炉を囲んでの読み聞かせなどが人気を集めています。子どもたちのところを育む作品を選び、上演可能な作品を65冊に増やしています。活動の継続により、テレビなどに取り上げられ、認知が広がりました。さらに、地域の行事への参加やホームページでの情報発信を通して、訪問先を広げています。

**3つの工夫**  
参加した子どもたちの声

- おばさん、どうしてこないだなかったの？ほく、待っていたんだよ。(児童養護施設)
- あらこの子、絵本の中に入っちゃってる。(子どもの様子を見て、保護者)

**3つの工夫**  
進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

絵本の素晴らしさを子どもや親子、大人へ伝えるために、自宅を改装して「編んでるシアター館」とし、家族単位や友人グループでの来館を受け入れています。地域行事に積極的に参加して読み聞かせを行ったり、ホームページで活動の告知や報告をするなどして認知を広げています。障がいを持ち、外出できない子ども宅への訪問などを視野に入れ、持ち運びしやすい「ミニ編んでる」を作成するなど、さらなる広がりを目指し活動を続けています。



多彩な運動プログラム  
運動遊びサークル「元気っ  
ずクラブ」では、公園の地  
形を利用して、段差のある  
場所での鬼ごっこや崖登  
り、またりレー遊び、綱引  
き、ボール投げなど、さま  
ざまな運動プログラムを  
行っています。

## 地域の公園を活かした外遊びサークル「元気っずクラブ」の活動 子どもの心と体を育む、 運動遊び

### ●活動領域

- 家庭
- 学校
- 地域
- 企業

### ●3つのところ

- 自分に
- 他者に
- 社会に

### 活動内容の紹介

#### 体力向上を考えた運動プログラム

子どもの体力低下の原因のひとつに挙げられている「時間」「空間」「仲間」の減少を一度に解消するために、年長児～小学生を対象とした運動遊びサークル「元気っずクラブ」を開設し、地域の公園でさまざまな運動プログラムを実施しています。プログラムは一回50分で、公園の地形を活かし、子どもが進んで取り組むような遊びの要素を取り入れたりレー遊びや綱引き、鬼ごっこなどで、単なる遊びにとどまらず、運動効果が上がる内容を取り入れています。

### 活動の広がりなど

#### 外遊びを通して、地域に子育ての輪を

子どもたちは運動遊びを通して、体力だけでなく規則性、自立性、他者を思いやる心を育み、心身ともに成長しています。子どもの体力向上策として「遊び」が重要視される中、活動が目目され、テレビや新聞等の取材を受けるなどし、地域の理解と認知が広がっています。さらに、『コーチングクリニック』（ベースボールマガジン社）など専門誌での連載執筆、学会での成果発表などを行い、活動の意義や成果を発信することで、全国への活動普及を目指しています。

**3つの工夫**  
参加した子どもたちの声

- 元気っずクラブは、上手にできなくてもいいから楽しい。
- 学校では出るチックが、ここではまったく出ません。(保護者)

**3つの工夫**  
進める工夫・広げる工夫・続ける工夫

20年間にわたり子どもたちの運動指導にあたってきた経験に基づき、健康運動指導士として活動しながら、体力向上のためのプログラム研究を続けています。主役である子どもたちが遊び足りることを重視し、「命令形、否定形の言葉づかいをしない」「ルールを大人が決めない」「威圧感を与えるような笛を吹かない」「過度な動きの規制をしない」という教育心理学を踏襲した指導法を徹底しています。活動成果を日本体育学会、日本発達障害学会などで積極的に発信しています。

# 子どもたちの「こころを育む活動」 2009年度受賞者 この一年(2010年)の 活動報告 2008年度受賞者一覧



全国各地で実践されている、子どもたちの「こころを育む」活動を支援する  
全国運動は、2008年度よりスタートいたしました。

第二回である09年度は、奨励賞に7団体2名、個人賞に1名、

ブロック大賞に5団体、全国大賞に1団体の

計13団体・3名が優秀事例として表彰されました。

受賞された皆さんは、さらに活動の輪を広げたり、

新たな領域に踏み出したりと、「こころを育む」活動を続けています。

09年度受賞団体・個人の受賞対象となった活動と受賞後の活動、

また08年度受賞団体・個人の皆さんをあらためてご紹介いたします。



## 全国大賞

■山形県立置賜農業高等学校 演劇部 (山形県)

### 食育ミュージカルによる 豊かなこころを育む運動

#### 農業高校の視点から、食を伝える食育ミュージカル

食育をテーマとしたミュージカルを制作し、小・中学校や児童館、公民館などへ出向いて公演活動を行っています。食べ物や命の大切さを学ぶ農業高校ならではの視点や言葉を活かしながら、命をいただくありがたさや食材の裏側にある農業や自然についてわかりやすく伝えることで、食生活の見直しや食によるこころと体の健康を考え直すきっかけ作りを目指しています。さらに、活動を通して、子どもと親、地域の人々や団体などと食育ネットワークを構築し、食育による豊かなこころ作りを進めることを目指し、活動しています。

#### 食育ミュージカル「ごちそうさま!は秘密のタカラ」

食育ミュージカルは、演劇部顧問である河原俊雄先生が台本・歌詞を書き、部員が振り付けをしたオリジナル作品です。3作目となる「ごちそうさま!は秘密のタカラ」では「家族で食事することの大切さ、食べ物は薬」というテーマで、食とこころのつながりを伝えました。



舞台装置は部員の手作り



食を見直すきっかけ作りを

食育をテーマに、命をいただくありがたさや食材につながる農業や自然について、わかりやすく伝えるオリジナルのミュージカルを制作し、公演活動を行っています。



子どもたちの感想を反映

#### 2010年の活動

#### 演歌ショー、 定期公演など 年間 55 回もの公演を実施

演歌ショー「夢芝居」公演では、高齢者との交流も。定期公演では野田秀樹「カノン」に挑戦、女子ポート部を描いた青春物語「Catch & Row」は地区大会で最優秀賞を受賞するなど、計 55 回の幅広い公演を行いました。



演歌ショー「夢芝居」公演では、部員と高齢者が交流を深めました。



#### 3 つ の 工 夫

##### 進める工夫

食について考えるきっかけ作りを目指して活動を進めています。楽しいストーリーや衣装など、子どもの興味を引きつけるためにさまざまな工夫を図っています。公演後はアンケート調査等で成果の確認を続けています。

##### 広げる工夫

教育関係者や食育の専門家に公演を見てもらったことから認知が広がり、地元の新聞やテレビでも取り上げられるようになりました。地域の小・中学校をはじめ公演先が幅広く、貴重な異年齢交流の機会ともなっています。

##### 続ける工夫

食育ミュージカルは、部員に合わせて台本を作成することで、部員全員が活躍する場を与えられ、また毎年違う作品が生まれています。「食育」をテーマに新たな活動も始まっており、「農業高校発信の食育活動」が発展しています。

●所在地：〒999-0121 山形県東置賜郡川西町大字上小松 3723 ●TEL：0238-42-2101

●E-mail：skawaharat@pref-yamagata.ed.jp ●HP：http://www.okitama-ah.ed.jp/ ●代表：齋藤 聖/担当者：河原 俊雄

## ブロック大賞 (関東ブロック)

特定非営利活動法人 湘南DVサポートセンター (神奈川県)

### いじめ防止プログラム「スクール・バディ」活動

#### 生徒の支え合いを支援、いじめ防止へ

講演会やワークショップなどからなる「いじめ防止プログラム」を実施後、有志を募り、子どもたち主体の支え合いシステム「スクール・バディ」活動へと進めています。スクール・バディとなった子どもたちは、いじめを未然に防ぐために、校内放送や新聞、演劇などの企画を自分たちで考えながら、継続した活動を行っています。

#### 2010年の活動

##### 「いじめ防止スクール・バディ・サミット」「いじめ防止指導者養成講座」実施

第2回「いじめ防止スクール・バディ・サミット」を開催。各学校のスクール・バディが意見交換などを行ったほか、子どもたちの言葉を歌にして発信しました。出来上がったCDは神奈川の中学生からの応援歌として震災地の中学校に送る計画です。また、文部科学省の委託により、「いじめ防止プログラム」指導者養成講座を開催しました。



12月に開催された、第2回スクール・バディ・サミット。

●所在地：〒251-0044 神奈川県藤沢市辻堂太平台 2-2-3-102 ●TEL：090-4430-1836 ●E-mail：tryton@kodomo-support.org  
●HP：http://www.kodomo-support.org ●代表者：瀧田 信之/担当者：渡邊 千尋

## ブロック大賞 (中部ブロック)

NPO 法人 福寿草の郷 (石川県)

### おたがいを知ろう…自然体験を通じたふれあい交流

#### 自然体験と交流を通して、「思いやる心」を育む

自然体験を通して子どもたちの健全育成を行うと共に、さまざまな障がいや悩みを抱える子どもたちが問題を乗り越え健やかに成長して行けるよう、自立更生支援を行っています。仲間と共に自然に触れ合う体験を通して、子どもたちは「問題を解決する力」や「考える力」を育み、また「伝える力」や「思いやる力」を深めています。

#### 2010年の活動

##### 「こころをつなぐイベント事業」実施

春と秋の年2回、困難を抱えた子どもたちが中心となり、ほかの多くの子どもたちと共に計画から実行まで協力しながらイベントを開催しました。和太鼓や少林寺拳法の披露、岩魚の塩焼きや焼き芋の調理・販売など趣向を凝らしたプログラムで、多くの参加者から好評を得ました。



イベントでは、地域の人々と子どもたちが一緒に楽しみました。

●所在地：〒922-0100 石川県加賀市山中温泉西住町二 25-1 ●TEL：0761-76-1991 ●E-mail：fj\_sato@bridge.ocn.ne.jp  
●HP：http://www16.ocn.ne.jp/~fjs/index.html ●代表者：高橋 竹夫/担当者：高橋 美子

## ブロック大賞 (近畿ブロック)

大阪府立豊中支援学校 D・D・D・クラブ(ドラム.大好き.大集合)(大阪府)

### 歌って、踊って、ドラムでハッピー!

#### 支援学校と地域をつなぐ、音楽活動

大阪府立豊中支援学校の在校生と卒業生、および彼らに関わる人々をクラブメンバーとして、ドラム演奏を軸とした音楽活動や公演を行っています。音楽活動を通して「在校生と卒業生/学校と地域」のつながりを育み、社会参加をすすめると同時に、障がい者への理解を広めたいとの思いから、さまざまな活動を続けています。

#### 2010年の活動

##### 各方面のステージに参加し、認知に広がり

学校や地域のさまざまな音楽イベントに参加し、在校生と卒業生と一緒に歌やダンス、ドラムなどのステージ発表を楽しみました。また、活動の様子が、豊中ケーブルテレビや教育専門誌で紹介されました。活動の継続と情報発信により、さらに活動の認知が広がっています。



さまざまなイベントでドラムを披露し、喝采を浴びました。

●所在地：〒560-0001 大阪府豊中市北緑丘 2-7-1 大阪府立豊中支援学校内 ●TEL：06-6840-1801 ~ 2 ●E-mail：Toyonaka-y@sbox.osaka-c.ed.jp  
●HP：http://www.osaka-c.ed.jp/toyonaka-y/ D.D.D.クラブHP：http://web.me.com/masaso/dddclub/ ●代表者(担当者)：園田 葉子

## ブロック大賞 (中国・四国ブロック)

城北公民館 (島根県)

### じゃがいも大作戦

#### 野菜栽培体験と、世代間交流の融合

小学生と地域住民と一緒に野菜を育てる活動を通して、両者の共学、協働、ふれあいを図る取り組みです。子どもと高齢者がチームとなり、プランターにじゃがいもを植え、協力しながら栽培し、収穫の喜びを体験します。地域と小学校が連携した活動により、子どもたちは物事をやり遂げる達成感を感じ、感謝の心を育んでいます。

#### 2010年の活動

##### 「じゃがいも大作戦」に107名が参加

「じゃがいも大作戦」に、城北小学校2年生107名と、地域の高齢者33名が参加しました。1月に行われた収穫祭には、子どもたちと高齢者だけでなく、今年度から保護者も加わり、計200名が参加。子どもたちの発表やじゃがいもカレーを楽しみながら、交流を深めました。



収穫祭には保護者も加わり、三世代の交流が行われました。

●所在地：〒690-0888 島根県松江市北堀町 43 ●TEL：0852-26-4437 ●E-mail：jyohokuk@mable.ne.jp  
●担当者：大谷 八重

## ブロック大賞 (九州・沖縄ブロック)

児童劇団つばさ (福岡県)

### 平和・環境・社会問題をテーマとする地域活動とミュージカルの公演

#### 郷土愛を育む、創作ミュージカル

子どもたちがお互いを思いやり、認め合い、努力しながら、健全な心身と、郷土や自然への愛と誇りを育むことを目的として、創作ミュージカル公演をはじめ地域の清掃など幅広い活動を展開しています。地域の風土や歴史、人物を題材とした公演を通して、団員の子どもたちと地域の人々に、人の心や自然の大切さ、郷土愛を伝えています。

#### 2010年の活動

##### 第25回記念公演「椎の実伝説」開催

第25回記念公演「椎の実伝説」を入場料無料で行いました。筑後小郡に伝わる民話を題材とした創作ミュージカルを通して、自然の大切さや資源の再利用についてメッセージを発信しました。また、慰問活動や環境保全活動、イベントにも積極的に参加し、親子で地域の人々と交流を深めています。



地域からの応援で、定期公演を25回続けています。

●所在地：〒838-0112 福岡県小郡市干潟 2346 ●TEL：090-8911-1431 ●E-mail：naomi\_f@mbe.nifty.com  
●HP：http://kurotsuchi.ogori.org/ ●担当者：福田 直美

### 講演を一冊にまとめた『いま、こころを育むとは』発行

「こころを育む総合フォーラム」は、シンポジウムおよび全国キャラバンでの講演を一冊にまとめた『いま、こころを育むとは』(小学館新書)を09年12月に発行いたしました。

物質的な繁栄を追い求める中で、私たち日本人は本当のこころの豊かさを失ってしまったのではないかと。いまこそ、大人も子どもも巻き込んだ、全国的なこころを育む教育運動を幅広く進める必要があるのではないかと。

フォーラム座長の山折哲雄による、「こころを育む」教育の大切さ、生きる力の育成に関する、具体的な提案です。



「いま、こころを育むとは～本当の豊かさを求めて～」  
著者：山折哲雄  
出版社：小学館  
サイズ：新書版  
ページ数：242ページ  
定価：756円(本体720円)  
発売日：2009年12月1日

## 奨励賞 (北海道・東北ブロック)

### ●ハート&アート空間“BE0”(ピーアイ)(宮城県)

#### 目指せ！心キンクマン!! 心を育む継続的ワークショップ

主に子どもを対象とした独自のワークショップを毎日継続して実施しています。子どもたちは、絵を描いたり、ものをつくるなどの表現活動を通して、豊かな心と生きる力を育てています。東日本大震災後も活動を再開し、作品展や支援活動など積極的に展開しています。

所在地：〒980-0822 宮城県仙台市青葉区立町 20-11 ミカミハウス 2F  
TEL：022-262-2969  
E-mail：zoukabako@gold.ocn.ne.jp  
HP：http://www12.ocn.ne.jp/~bei/ http://1987bei.blog.shinobi.jp/  
代表者：関口 怜子 担当者：清水 千佳

## 奨励賞 (関東ブロック)

### ●一般社団法人大丸有(だいまるゆう)環境共生型 まちづくり推進協会(エコッツェリア協会)(東京都)

#### エコキッズ探検隊 2009

東京の大手町・丸の内・有楽町(=大丸有地区)を中心に、多くの企業が協力し、都市特有の環境・エネルギー問題への理解を深めるプログラムを実施しています。2010年度も、工作・いきもの・音楽・食などさまざまな分野のプログラムが行われ、約1,000名が参加しました。

所在地：〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-5-1 新丸の内ビルディング 10 階  
TEL：03-6266-9400  
HP：http://ecozzeria.jp  
代表者：井上 成 担当者：篠崎 隆一

## 奨励賞 (近畿ブロック)

### ●三重県伊勢市立五十鈴中学校(三重県)

#### サステイナブル社会の実現をめざすための シズンシップや行動力を養うための学習

持続可能な社会のために解決すべき問題について学び、問題解決のために何ができるのか考える心を養うことを目的として、体験学習を実施しました。地域や企業と連携し、地場産業である「松阪もめん」のチャリティ商品製作・販売や、街頭での募金活動などを行いました。

所在地：〒516-0028 三重県伊勢市中村町 458  
TEL：0596-22-3610 (伊勢市立小俣中学校)  
E-mail：torazan@amigo2.ne.jp  
代表者：島原 弥生 (五十鈴中学校)  
担当者：西村 朱美 (小俣中学校)

## 奨励賞 (九州・沖縄ブロック)

### ●食から環境を考える未来(みく)の会(福岡県)

#### 子どもといっしょにエコプロジェクト (ごきげんごはんを作ろう)

食と環境を連携させ、考える場・行動する場・継続する力を培う場として、また命の大切さを伝えることを目的として、料理教室などを実施しています。2010年度の夏休みに、基本を学ぶ4回連続の料理教室を実施。12月にその同窓会を開催し、異学年の子どもたちが交流を深めました。

所在地：〒810-0022 福岡県福岡市中央区薬院 1-16-5 松井ビル 1002  
TEL：092-711-2022  
E-mail：mi2355ku@zc4.so-net.ne.jp  
代表者：松井 久美子 担当者：篠原 貴美恵

## 個人の部 奨励賞

### ●富樫 俊江(東京都)

#### 「歌と遊びの会」による文化の伝承活動

子どもたちとその親、地域の高齢者の三世代で、歌や遊びを楽しみながら伝承文化に触れる「歌と遊びの会」を実施しています。さらに、小・中学生・PTAなど10グループによる大型紙芝居づくり、小学校でむかし遊びの体験授業を実施するなど、世代をつなぐ活動を広げています。

TEL・FAX：042-735-4743  
E-mail：yukisakura1026@yahoo.co.jp (協力者 宮本)

## 奨励賞 (関東ブロック)

### ●社団法人ガールスカウト日本連盟(東京都)

#### ピースバックプロジェクト

難民の子どもたちへ平和の小包「ピースバック」を送る活動を通して、子どもたちは難民や平和について学びました。新たに、日本と難民キャンプを緑豊かにする「ピースプロジェクト GreenerxGreener」を立ち上げ、子どもたちの「環境と平和を大切に作る心」を育てています。

所在地：〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-40-3  
TEL：03-3460-0701  
E-mail：gsj@girlscout.or.jp  
HP：http://www.girlscout.or.jp  
代表者：浅野 万里子 担当者：片岡 麻里

## 奨励賞 (中部ブロック)

### ●はなまる地域探検隊(長野県)

#### どの子ども育つ 「頭で学ぶ・体で学ぶ・こころで学ぶ」

伊那市教育委員会が中心となり、自然を利用した動植物観察、ものづくり体験・奉仕活動などを行っています。新たに、気象観測所や企業などと連携し、地域のよさ、自然の美しさを学ぶ体験活動を実施。継続した活動により、スタッフとして活動する子どもたちも増えています。

所在地：〒396-8617 長野県伊那市伊那部 3050  
TEL：0265-78-4111 (内線 2726)  
代表者：田中 博文 担当者：伊藤 元郎

## 奨励賞 (中国・四国ブロック)

### ●備前プレーパークの会(岡山県)

#### 自然環境を最大限に生かした冒険遊び場づくり への挑戦 ～人と人がつながり育ち合う 森の冒険ひみつ基地～

子どもたちの自己肯定感を高め、生きる力や社会性を育むことを目的として、冒険遊び場(プレーパーク)活動に取り組んでいます。新たに父親参加プロジェクトや、地域の人々を指導者に招いての体験活動などプログラムを広げ、地域みんなで子育てできる環境づくりを進めています。

所在地：〒705-0024 岡山県備前市久々井 1431-1  
TEL：0869-64-4178  
E-mail：bizen\_playpark@yahoo.co.jp  
HP：http://bizenplaypark.blog66.fc2.com/  
代表者(担当者)：北口 ひろみ

## 個人の部 個人賞

### ●松浦 明博(東京都)

#### 夜間定時制高校での「奉仕」の授業実践

夜間定時制高校の生徒たちに、社会の一員としての自覚を持たせ、人に喜ばれることを自分の喜びにできるよう、奉仕の授業を実践。夜間定時高校の特質をいかした「夜回り」を行いました。消防署や地域と連携し、また生徒の意識を高める工夫を図ることで、成功へ導きました。

TEL：080-3156-1445

## 個人の部 奨励賞

### ●佐藤 重一郎(京都府)

#### 自分史を語り日本人の心の遺産を伝える活動

自身の人生体験をつづった紙芝居やDVD などを通して、大切な心のあり方・あおいくまの心(「あ」きらめない「お」こらない「い」ばらない「く」さらない「ま」けない)を伝えています。「日本の心の遺産を伝える会」を設立し、ホームページで情報発信するなど、活動を広げています。

TEL：0774-33-6117 (代理 080-3867-7967)  
HP：http://www.kokoronois.com/

# 2008年度受賞者一覧

#### ■全国大賞

##### 社団法人群馬県助産師会(群馬県)

活動テーマ：助産師による「いのちの大切さを伝える」出前講座  
所在地：〒373-0018 群馬県太田市丸山町 250-7  
TEL/FAX：0276-37-5198  
E-mail：s.mide@jeans.ocn.ne.jp  
代表者：鈴木 せい子

#### 特別賞・ブロック大賞(中国・四国ブロック)

##### NPO 法人 森と海の学校(山口県)

活動テーマ：「子ども自然体験キャンプ」「ジュニア洋上スクール」事業による「親からの手紙」と青少年指導者の育成  
所在地：〒759-0206 山口県宇部市大字東須恵 1271-15  
TEL：0836-41-5435 FAX：0836-44-4423  
E-mail：seiji@okamura21.com  
代表者：岡村 精二 担当者：岡村 里美

#### ■ブロック大賞(北海道・東北ブロック)

##### あじ島冒険楽校(宮城県)

活動テーマ：「昔の子どもたち」から「未来の大人たち」へ「島の夏休み」を伝えたい  
所在地：〒986-2525 宮城県石巻市長渡浜姥婆 15  
TEL：090-2609-0673  
E-mail：marukin@mbj.nifty.com HP：http://plaza.rakuten.co.jp/ajisima  
代表者：小野 勝吉 担当者：阿部 欽一郎

#### ■ブロック大賞(関東ブロック)

##### 足立区立第十一中学校 開かれた学校づくり協議会(東京都)

活動テーマ：花むすび  
～「中学校を拠点とする“地域づくり”“学校づくり”“こどもほめ育て”の地域ぐるみの取り組み」～  
所在地：〒120-0013 東京都足立区弘道 1-38-15 足立区立第十一中学校内  
TEL：03-3887-8191 FAX：03-3887-8192  
E-mail：ichikawa0835@key.ocn.ne.jp  
代表者：遠藤 光彦 担当者：市川 昭

#### ■ブロック大賞(中部ブロック)

##### 少年少女合唱団マーレ(福井県)

活動テーマ：歌声体験交流活動  
所在地：〒914-0124 福井県敦賀市市野々 6-2-2 第二早翠幼稚園内  
TEL：0770-21-0002 FAX：0770-21-0022  
E-mail：mare@samidori.ed.jp HP：http://www.samidori.ed.jp/mare/index.html  
代表者：赤谷 尚実 担当者：徳本 範子

#### ■ブロック大賞(近畿ブロック)

##### 特定非営利活動法人 ふれあいネットひらかた(大阪府)

活動テーマ：商店街の空き店舗を活用し、食育をテーマとした小学生の居場所づくり「キッズ・キッチン」  
所在地：〒573-1144 大阪府枚方市牧野本町 2-19-2 長村ビル1階  
TEL/FAX：072-397-2111  
E-mail：yu715jp@yahoo.co.jp HP：http://www.shokuiku-station.com/  
代表者(担当者)：野村 由賀里

#### ■ブロック大賞(九州・沖縄ブロック)

##### KSVN 嘉瀬小学校ボランティアネットワーク(佐賀県)

活動テーマ：「どようひろば」  
所在地：〒840-0863 佐賀県佐賀市嘉瀬町大字十五 12-1 (佐賀市立嘉瀬小学校内)  
TEL：0952-23-6400 FAX：0952-23-6427  
E-mail：skase@city.saga.lg.jp HP：http://www2.saga-ed.jp/school/edq10107/  
代表者：田中 清 担当者：村岡 智彦、船津 智

# 広がる交流の輪

2008年にスタートした、「こころを育む総合フォーラム 全国運動」は、2010年度で3年目を迎えました。優れた活動として、計45の団体・個人の方々が表彰されています。フォーラムで実施した交流会などをきっかけに受賞者の方々に交流が生まれ、活動の輪が広がっています。

#### ■奨励賞(北海道・東北ブロック)

くしろゴールドシアターきらり座(北海道)  
活動テーマ：キッズと高齢者のコラボ劇「おじいちゃんと話そうよ」  
所在地：〒085-0007 北海道釧路市堀川町 8-3 佐藤方(事務局)  
TEL/FAX：0154-24-7663  
E-mail：sinnpou@purple.plala.or.jp  
代表者：佐藤 伸邦(事務局長)

#### ■奨励賞(関東ブロック)

##### 越谷市立大沢小学校(埼玉県)

活動テーマ：自分を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成  
所在地：〒343-0025 埼玉県越谷市大沢 2-13-21  
TEL：048-974-8522 FAX：048-974-8521  
E-mail：osawa-e@school.city.koshigaya.saitama.jp  
HP：http://school.city.koshigaya.saitama.jp/osawa-e  
代表者：金澤 勝幸

#### ■奨励賞(中部ブロック)

##### 特定非営利活動法人 リトミック Gifu(岐阜県)

活動テーマ：小学生の土曜日居場所づくり「表現のワークショップ&ミュージカル」  
所在地：〒503-0808 岐阜県大垣市三塚町 501-1  
TEL：0584-78-9598 FAX：0584-47-5052  
E-mail：dezaki82@yahoo.co.jp HP：http://www.rito-gifu.net/  
代表者(担当者)：出崎 恭子

#### ■奨励賞(近畿ブロック)

##### 公益財団法人 山本能楽堂(大阪府)

活動テーマ：「アートによる能案内」と「能と遊ぼう!」  
所在地：〒540-0025 大阪府大阪市中央区徳井町 1-3-6  
TEL：06-6943-9454 FAX：06-6942-5744  
E-mail：info@noh-theater.com HP：http://www.noh-theater.com  
代表者：山本 旭彦 担当者：山本 佳話枝

#### ■奨励賞(中国・四国ブロック)

##### 夢配達人プロジェクト 神石高原町実行委員会(広島県)

活動テーマ：神石高原町を舞台にした絵本が作りたい  
所在地：〒720-1522 広島県神石郡神石高原町小島 2025  
TEL：0847-89-3344 FAX：0847-85-2227  
E-mail：jk-kyoiku@town.jinsekikogen.hiroshima.jp  
代表者：木野山 孝志 担当者：野村 俊英

#### ■奨励賞(九州・沖縄ブロック)

##### 久米島ホテルの会(沖縄県)

活動テーマ：ホテル舞い飛ぶ久米島の島づくり  
所在地：〒901-3123 沖縄県島尻郡久米島字大田420  
TEL/FAX：098-896-7100  
E-mail：kumehotaru@yahoo.co.jp HP：http://www.kumehotarunokai.com  
代表者：宇江原 総清 担当者：佐藤 直美

#### ■個人の部 個人賞

##### 金杉 朋子(東京都)

活動テーマ：アイデンティティ形成に向け、高校生が自己表現する倫理の授業実践  
～「かけがえなさを認め合う場」としてのクラスの可能性～  
TEL/FAX：03-3721-4808  
E-mail：kanasugiga@gmail.com

#### ■個人の部 奨励賞

##### 向井 哲朗(鳥取県)

活動テーマ：「泳げる中海を取り戻す」  
～身近に出来る水質浄化活動を機軸に、リサイクルの実践、小さな環境活動を積み重ねる～  
TEL/FAX：0859-29-3974  
E-mail：hsmrs477@ybb.ne.jp



08年度、09年度受賞の方々もお招きし開催した、2010年度受賞者交流会。